

令和2年度
県民アンケート調査
報告書

<概要版>

令和3年2月

奈良県

— 目次 —

第1章 調査の実施概要	1
1. 調査の目的	1
2. 調査項目	1
3. 調査の設計	1
4. 調査票の配布・回収の状況	1
第2章 調査結果の分析	3
1. 県民の生活全般について	3
1-1 現在の暮らし向きの実感	3
1-2 1年前と比較した暮らし向きの実感	4
1-3 1年前と比較して暮らし向きの実感が変化した理由	5
1-4 日頃の生活での悩みや不安の有無	7
1-5 日頃の生活での悩みや不安の内容	8
1-6 奈良県の住みやすさの評価	9
1-7 将来の奈良県での定住意向	10
1-8 将来的に奈良県に定住したい／したくない理由	11
2. 県民の生活に関する重要度・満足度について	13
3. 新型コロナウイルス感染症の影響	21
4～11. 県民の生活に関する意識やニーズについて 【「奈良新『都』づくり戦略2020」との対応】	23
4. 観光について【賑わう「都」をつくる】	23
5. 農林業について～食生活～【豊かな「都」をつくる】	27
6. 農林業について～食品ロス～【愉しむ「都」をつくる】	28
7. 農林業について～県内産食材～【栄える「都」をつくる】	30
8. 少子化対策について【愉しむ「都」をつくる】	32
9. 健康づくりについて～自転車の利用～【愉しむ「都」をつくる】	33
10. 健康づくりについて～健康づくり～【健やかな「都」をつくる】	35
11. 文化振興について【智恵の「都」をつくる】	37
12. 回答者に関すること	39

第1章 調査の実施概要

1. 調査の目的

身近な生活に関する事柄についての重要度・満足度のほか、「観光」や「農林業」等に関する意識やニーズを把握し、今後の県政運営の基礎資料とすることを目的に、アンケート調査を実施しました。

2. 調査項目

県民の生活全般に関する項目、県民にとって身近な生活に関する項目についての重要度と満足度を5段階で問う項目、「観光」や「農林業」等に関する意識やニーズ及び回答者の属性を問うフェイスシートから構成されています。

3. 調査の設計

◇調査地域	奈良県全域	◇調査対象	県内在住の満20歳以上の男女・個人
◇調査標本数	5,000人	◇調査抽出法	層化二段無作為抽出法
◇調査方法	郵送配布・郵送回収	◇調査時期	令和2年8月1日(土)～8月20日(木)

4. 調査票の配布・回収の状況

◇配布件数	5,000件	◇有効回答数(率)	2,809件(56.2%)
-------	--------	-----------	---------------

■ライフステージの区分と区分の設定条件及び有効回答数

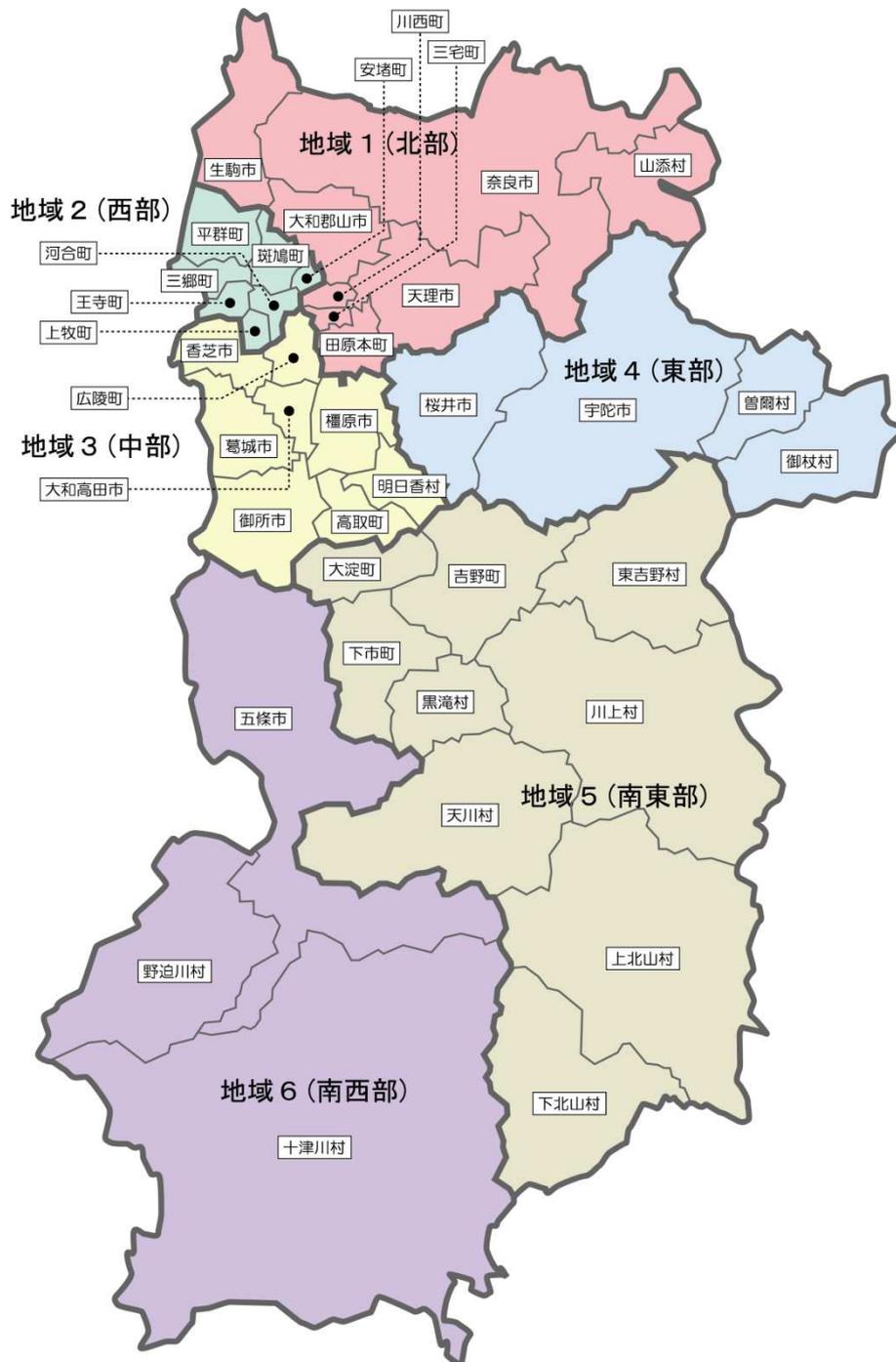
区分	区分の設定条件	有効回答数	構成比
若者	20～29歳で、夫婦のみの世帯以外の世帯の回答者	173	6.2%
夫婦	20～64歳で、夫婦のみの世帯の回答者	258	9.2%
育児期	小学校入学前の子どもがいる世帯の回答者	223	7.9%
教育期前期	小・中学生、高校生、高専生の子どもがいる世帯の回答者	432	15.4%
教育期後期	専門学校生・短大生・予備校生・大学生(院生)の子どもがいる世帯の回答者	241	8.6%
単身高齢者	65歳以上の単身世帯の回答者	146	5.2%
高齢者夫婦	65歳以上の夫婦のみの世帯の回答者	533	19.0%
非該当又は無回答		1,022	36.4%
合計※注		3,028	-
有効回答数		2,809	100.0%

(注) ライフステージ区分は、「年齢」、「世帯構成」、「子どもの成長段階」の複数の要素を組み合わせて設定している。2人以上の子どもがいる場合、複数の区分に該当するため、合計は有効回答数(2,809件)と一致しない。

■旧住民・新住民の区分と区分の設定条件及び有効回答数

区分	区分の設定条件	有効回答数	構成比
旧住民(奈良県にずっと住んでいる人)	生まれたときから奈良県に住んでいる回答者	1,592	56.7%
新住民(奈良県に新しくきた人)	生まれたときは奈良県に住んでおらず、移住してきた回答者	1,179	42.0%
無回答		38	1.4%
合計		2,809	100.0%

地域の区分



区分名	該当市町村名	有効回答数	構成比
地域1(北部)	奈良市・大和郡山市・天理市・生駒市・山添村・川西町・三宅町・田原本町	1,368	48.7%
地域2(西部)	平群町・三郷町・斑鳩町・安堵町・上牧町・王寺町・河合町	277	9.9%
地域3(中部)	大和高田市・橿原市・御所市・香芝市・葛城市・高取町・明日香村・広陵町	688	24.5%
地域4(東部)	桜井市・宇陀市・曾爾村・御杖村	210	7.5%
地域5(南東部)	吉野町・大淀町・下市町・黒滝村・天川村・下北山村・上北山村・川上村・東吉野村	176	6.3%
地域6(南西部)	五條市・野迫川村・十津川村	90	3.2%
合計		2,809	100.0%

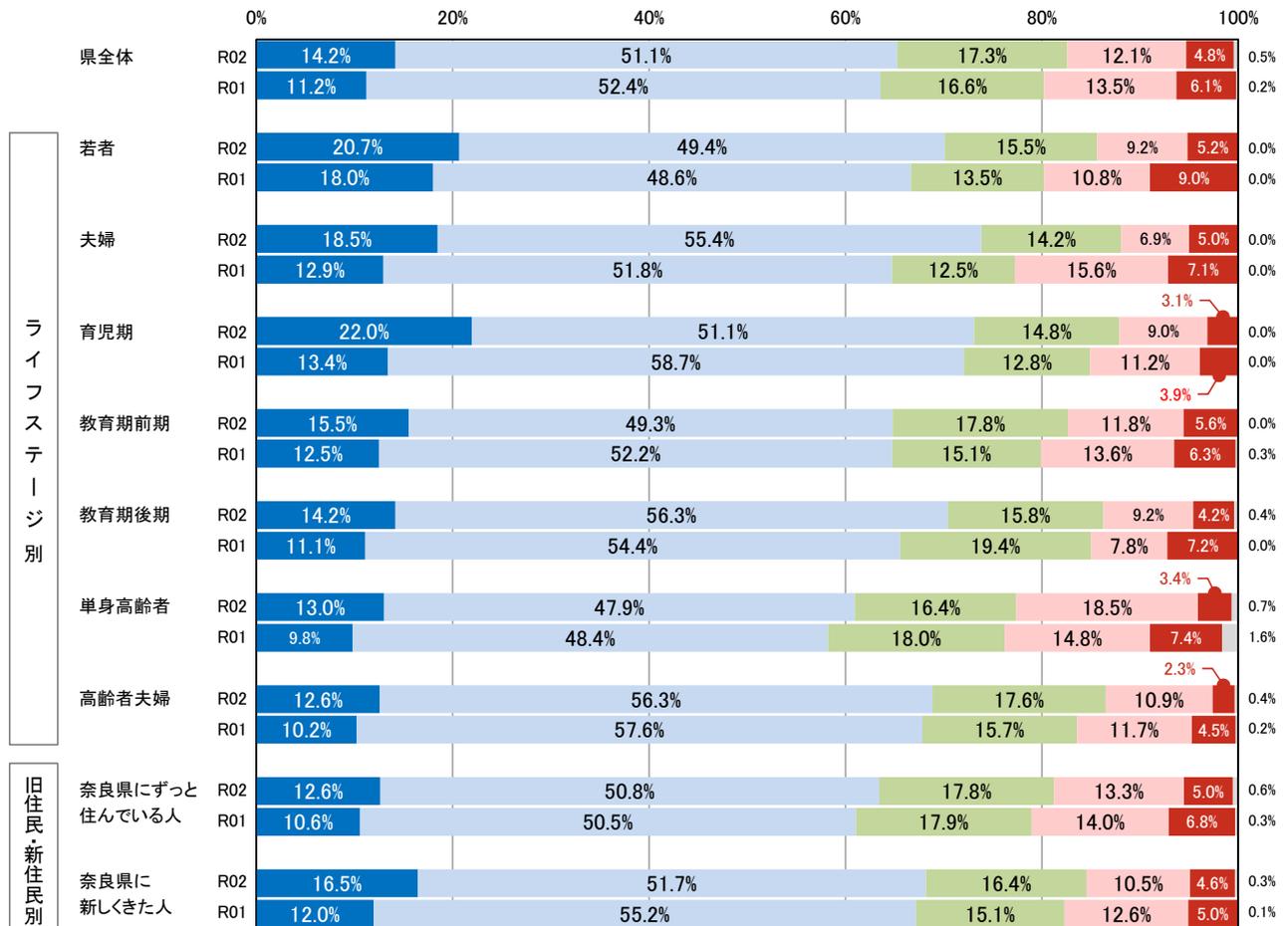
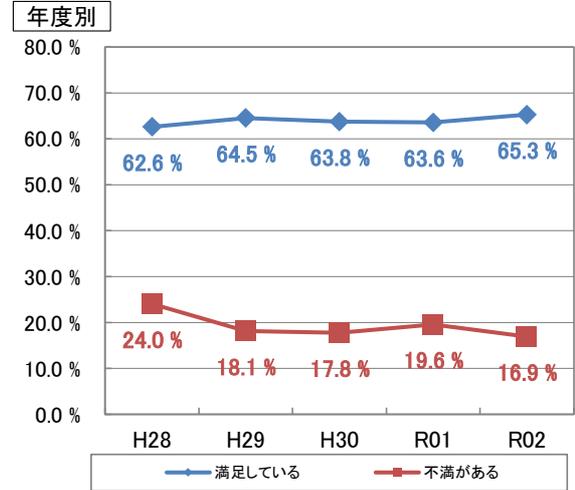
第2章 調査結果の分析

1. 県民の生活全般について

1-1 現在の暮らし向きの実感（問1）

※第2章において、年度別の数値は、前回までの調査結果と比較しています。

- 「満足」（「満足している」+「十分とはいえないが一応満足している」）している人は 65.3%で、令和元年度と比較すると、1.7ポイント増加しています。「不満」（「やや不満である」+「不満である」）を抱えている人は 16.9%で、令和元年度と比較すると、2.6ポイント減少しています。
- ライフステージ別に見ると、「満足」している人が最も多いのは『夫婦』（73.8%）となっています。一方、「不満」を抱えている人が最も多いのは『単身高齢者』（21.9%）となっています。
- 旧住民・新住民別に見ると、「満足」している人は、『奈良県に新しくきた人』（68.2%）が『奈良県にずっと住んでいる人』（63.4%）と比べ多くなっています。



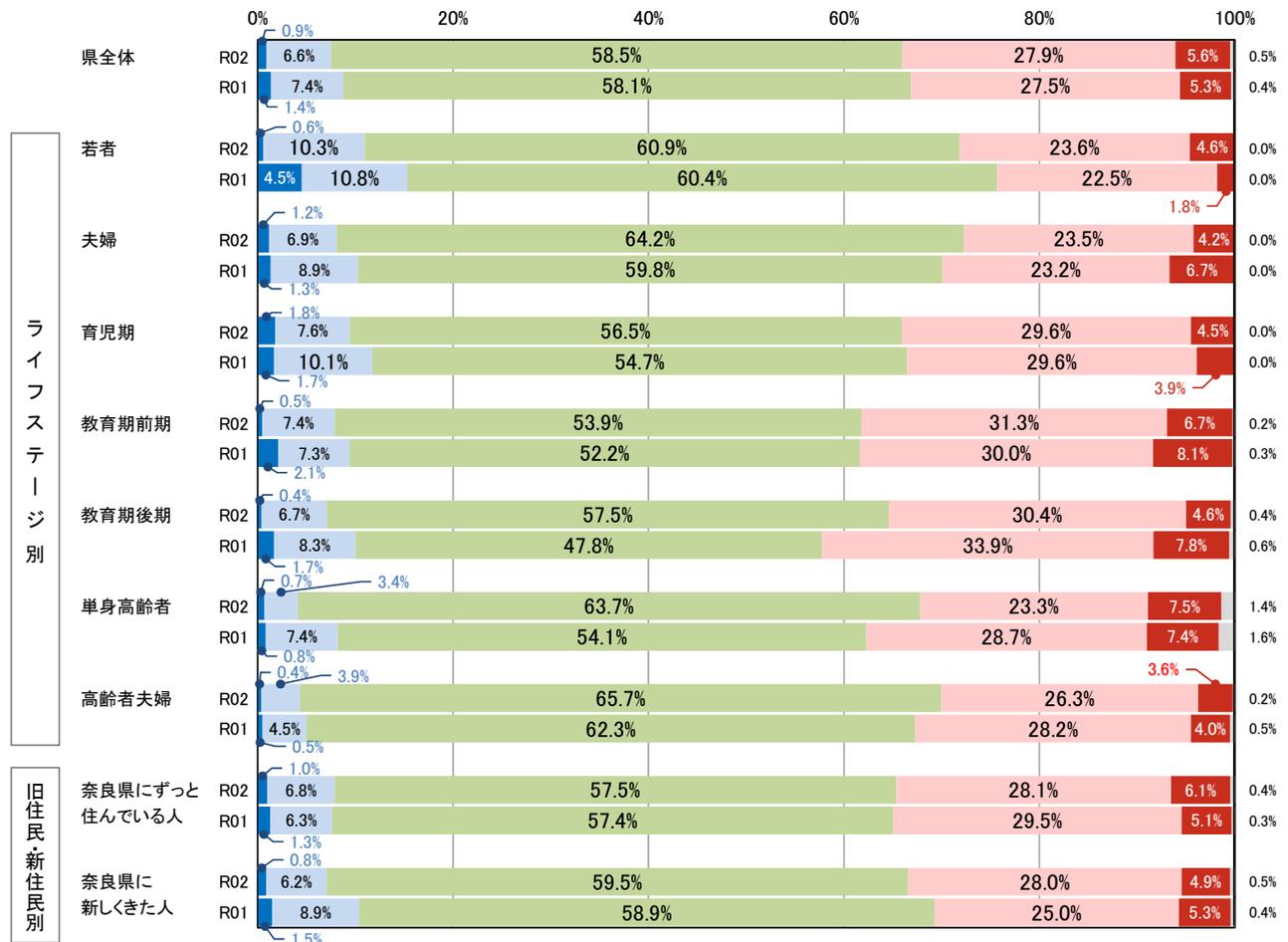
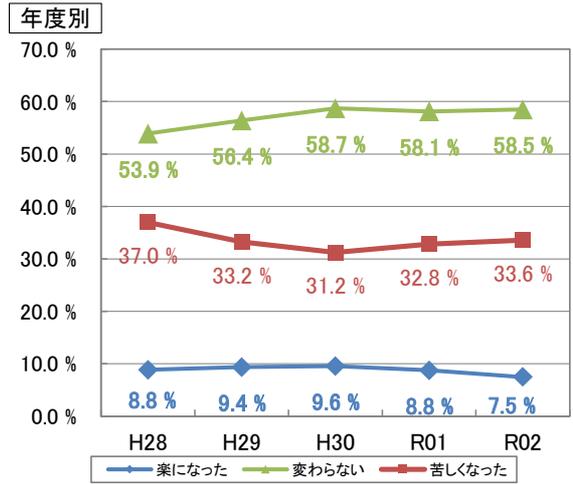
※四捨五入の関係で内訳の合計が100%と一致しない場合があります。

1-2 1年前と比較した暮らし向きの実感（問2）

■「変わらない」と感じている人は 58.5%で、令和元年度から 0.4 ポイント増加、また、「楽になった」（「とても楽になった」+「少し楽になった」）と感じている人（7.5%）は、1.2 ポイント減少しています。一方、「苦しくなった」（「少し苦しくなった」+「とても苦しくなった」）と感じている人（33.6%）は、令和元年度から 0.8 ポイント増加しています。

■ライフステージ別にみると、「苦しくなった」と感じている人は、『教育期前期』（38.0%）が最も多く、次いで『教育期後期』（35.0%）となっています。

■旧住民・新住民別にみると、「苦しくなった」と感じている人は、『奈良県にずっと住んでいる人』（34.2%）が『奈良県に新しくきた人』（32.9%）と比べ多くなっています。



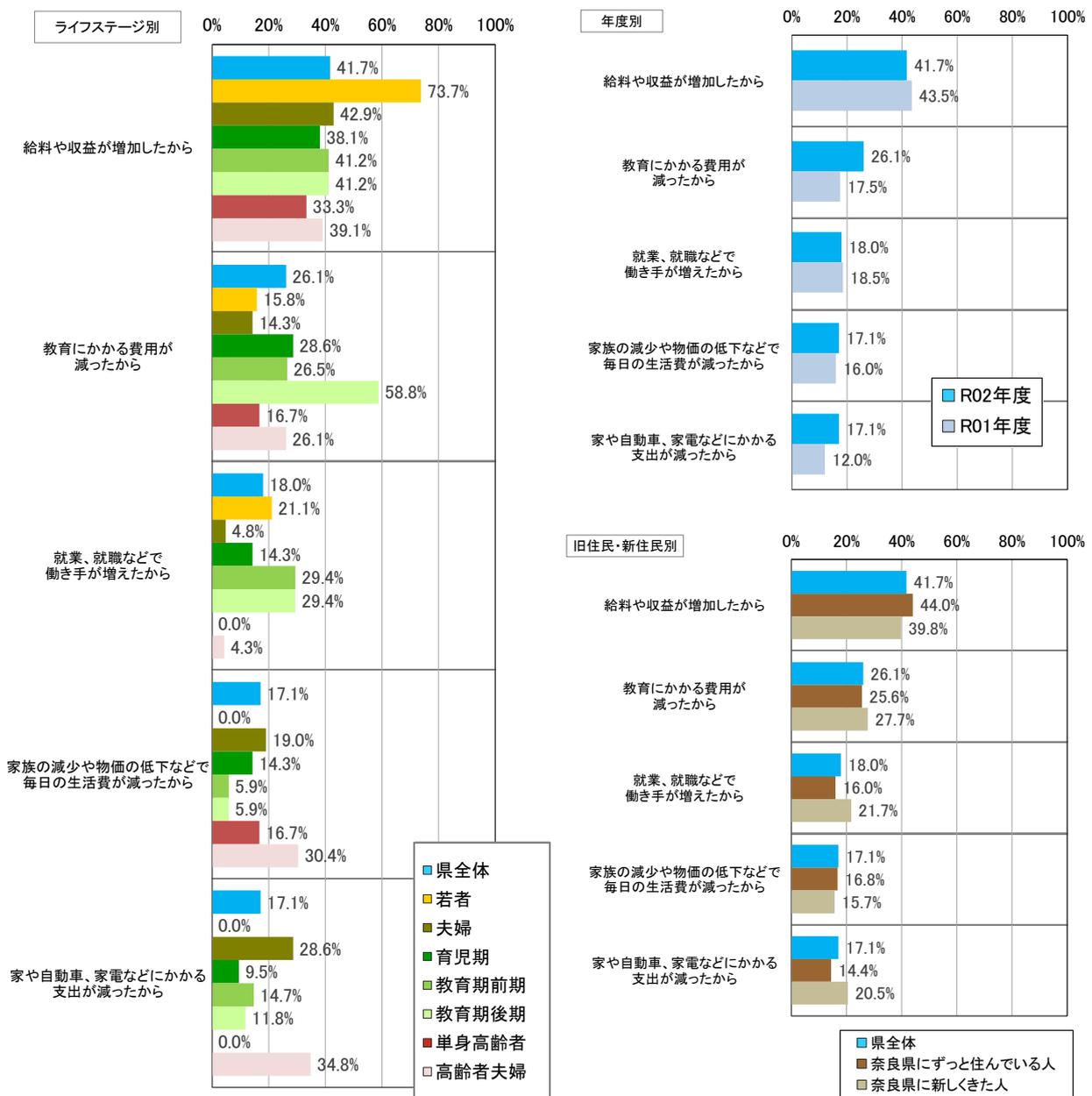
■とても楽になった ■少し楽になった ■変わらない ■少し苦しくなった ■とても苦しくなった ■無回答

※四捨五入の関係で内訳の合計が100%と一致しない場合があります。

1-3 1年前と比較して暮らし向きの実感が変化した理由

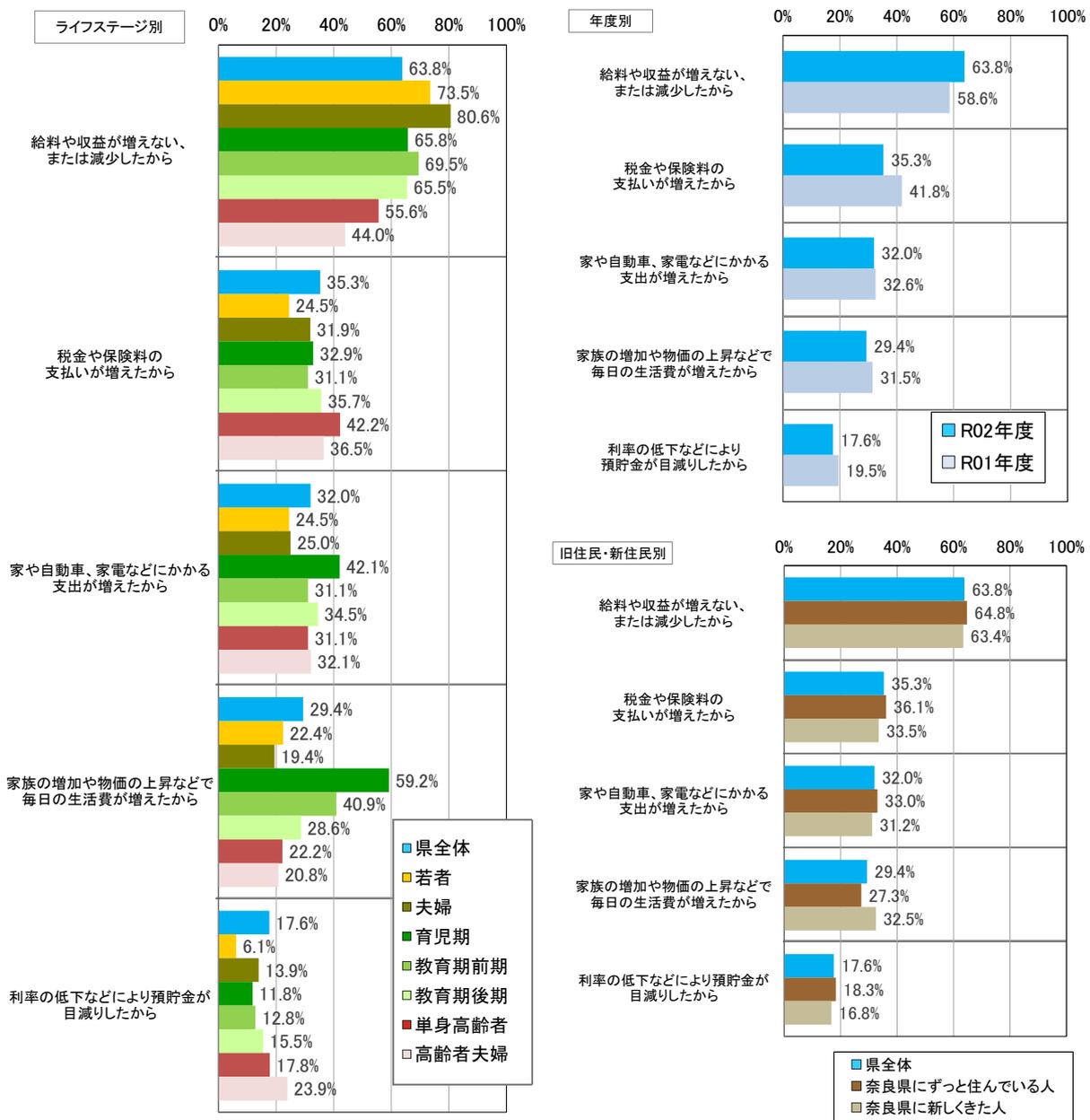
(1) 1年前と比較して暮らし向きの実感が「とても楽になった」または「少し楽になった」と答えた理由（問3 5つ以内で複数回答 県全体についての上位5項目を掲載）

- 1年前と比較して暮らし向きの実感が「とても楽になった」または「少し楽になった」と答えた理由を尋ねたところ、「給料や収益が増加したから」(41.7%)が最も多く、次いで「教育にかかる費用が減ったから」(26.1%)、「就業、就職などで働き手が増えたから」(18.0%)、「家族の減少や物価の低下などで毎日の生活費が減ったから」(17.1%)、「家や自動車、家電などにかかる支出が減ったから」(17.1%)が多くなっています。
- 「給料や収益が増加したから」と答えた人については、ライフステージ別では『若者』が最も多く、旧住民・新住民別では『奈良県にずっと住んでいる人』が多くなっています。
- 「教育にかかる費用が減ったから」と答えた人については、ライフステージ別では『教育期後期』が最も多く、旧住民・新住民別では『奈良県に新しく来た人』が多くなっています。
- 「就業、就職などで働き手が増えたから」と答えた人については、ライフステージ別では『教育期前期』、『教育期後期』が同率で最も多く、旧住民・新住民別では『奈良県に新しく来た人』が多くなっています。
- 「家族の減少や物価の低下などで毎日の生活費が減ったから」と答えた人については、ライフステージ別では『高齢者夫婦』が最も多く、旧住民・新住民別では『奈良県にずっと住んでいる人』が多くなっています。
- 「家や自動車、家電などにかかる支出が減ったから」と答えた人については、ライフステージ別では『高齢者夫婦』が最も多く、旧住民・新住民別では『奈良県に新しく来た人』が多くなっています。



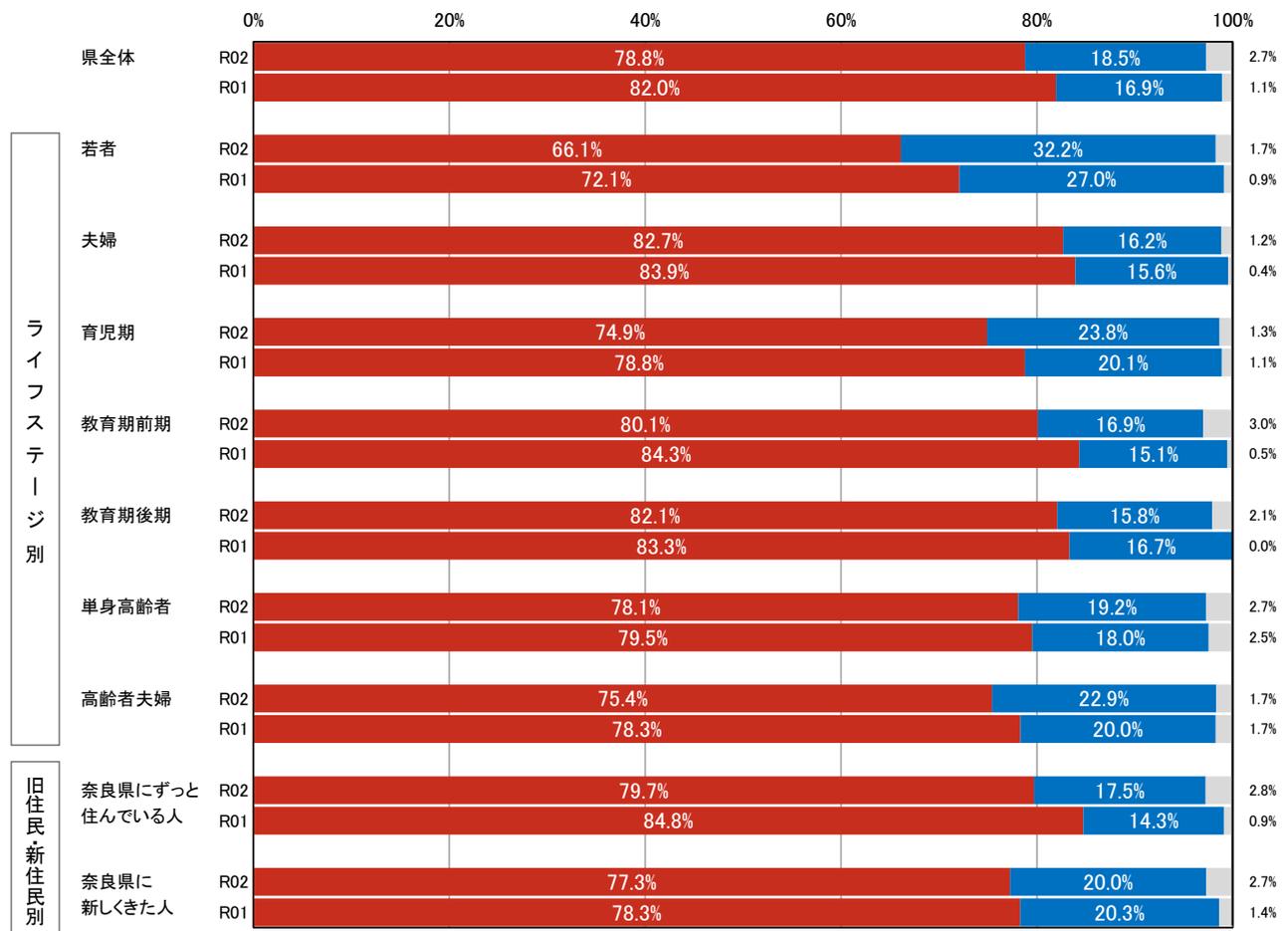
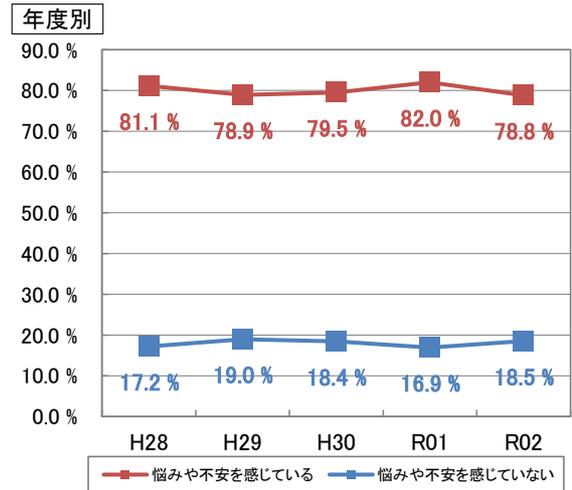
(2) 1年前と比較して暮らし向きの実感が「少し苦しくなった」または「とても苦しくなった」と答えた理由 (問4 5つ以内で複数回答 県全体についての上位5項目を掲載)

- 1年前と比較して暮らし向きの実感が「少し苦しくなった」または「とても苦しくなった」と答えた理由を尋ねたところ、「給料や収益が増えない、または減少したから」(63.8%)が最も多く、次いで「税金や保険料の支払いが増えたから」(35.3%)、「家や自動車、家電などにかかる支出が増えたから」(32.0%)、「家族の増加や物価の上昇などで毎日の生活費が増えたから」(29.4%)、「利率の低下などにより預貯金が目減りしたから」(17.6%)が多くなっています。
- 「給料や収益が増えない、または減少したから」と答えた人については、ライフステージ別では『夫婦』が最も多く、旧住民・新住民別では『奈良県にずっと住んでいる人』が多くなっています。
- 「税金や保険料の支払いが増えたから」と答えた人については、ライフステージ別では『単身高齢者』が最も多く、旧住民・新住民別では『奈良県にずっと住んでいる人』が多くなっています。
- 「家や自動車、家電などにかかる支出が増えたから」と答えた人については、ライフステージ別では『育児期』が最も多く、旧住民・新住民別では『奈良県にずっと住んでいる人』が多くなっています。
- 「家族の増加や物価の上昇などで毎日の生活費が増えたから」と答えた人については、ライフステージ別では『育児期』が最も多く、旧住民・新住民別では『奈良県に新しくきた人』が多くなっています。
- 「利率の低下などにより預貯金が目減りしたから」と答えた人については、ライフステージ別では『高齢者夫婦』が最も多く、旧住民・新住民別では『奈良県にずっと住んでいる人』が多くなっています。



1-4 日頃の生活での悩みや不安の有無（問5）

- 平成 28 年度から継続して 80%前後の人が日頃の生活に対し「悩みや不安を感じている」と答えています。令和元年度と比較すると、「悩みや不安を感じている」と答えた人は 3.2 ポイント減少して 78.8%となり、過去5か年で最も少なくなっています。一方、「悩みや不安を感じていない人」は 1.5 ポイント増加して 18.5%となっています。
- ライフステージ別にみると、「悩みや不安を感じている」と答えた人は、『夫婦』(82.7%)、『教育期後期』(82.1%)、『教育期前期』(80.1%)で8割以上となっています。
- 旧住民・新住民別にみると、「悩みや不安を感じている」と答えた人は、『奈良県にずっと住んでいる人』(79.7%)が『奈良県に新しくきた人』(77.3%)と比べ多くなっています。

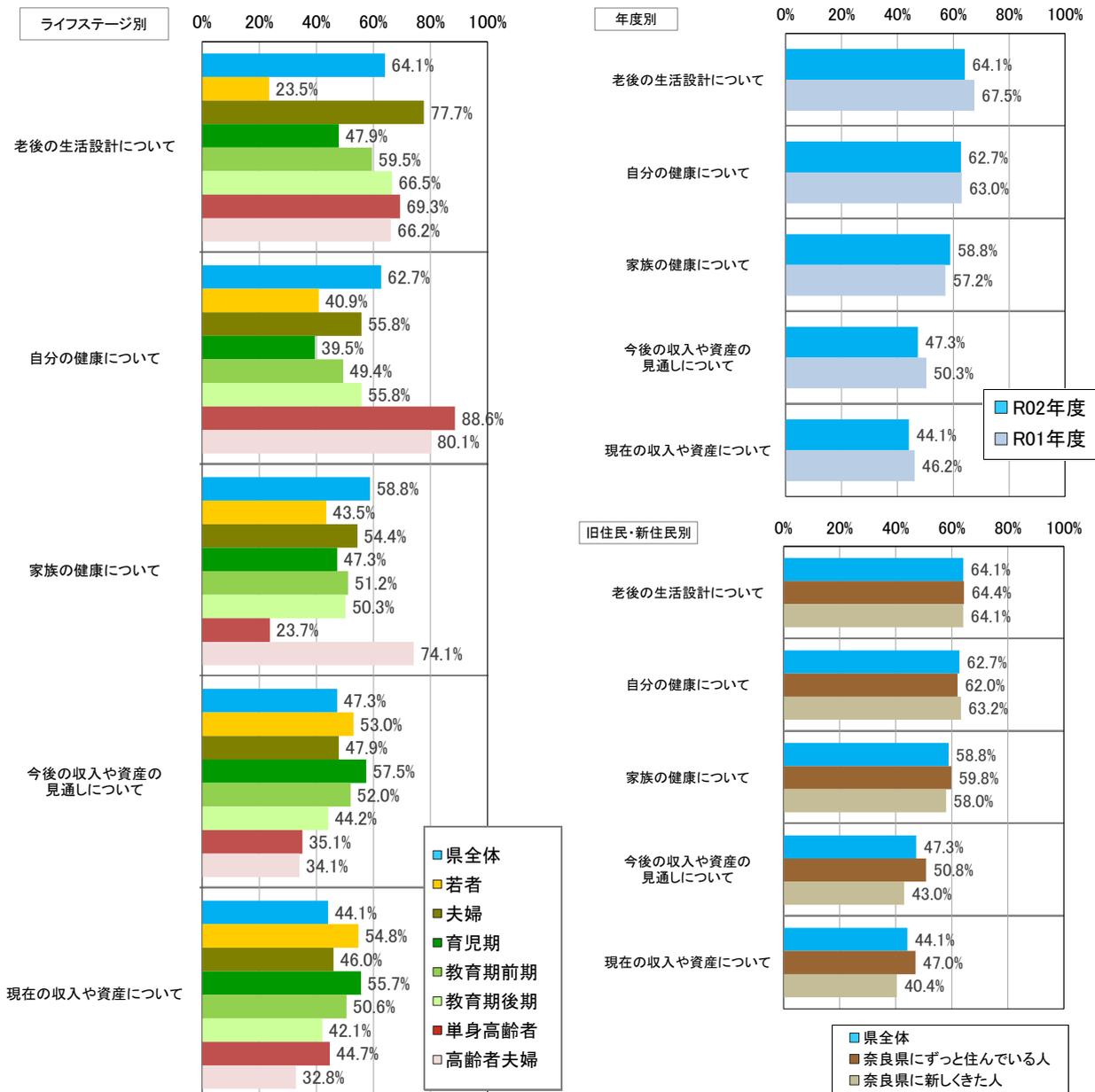


■悩みや不安を感じている ■悩みや不安を感じていない □無回答

※四捨五入の関係で内訳の合計が100%と一致しない場合があります。

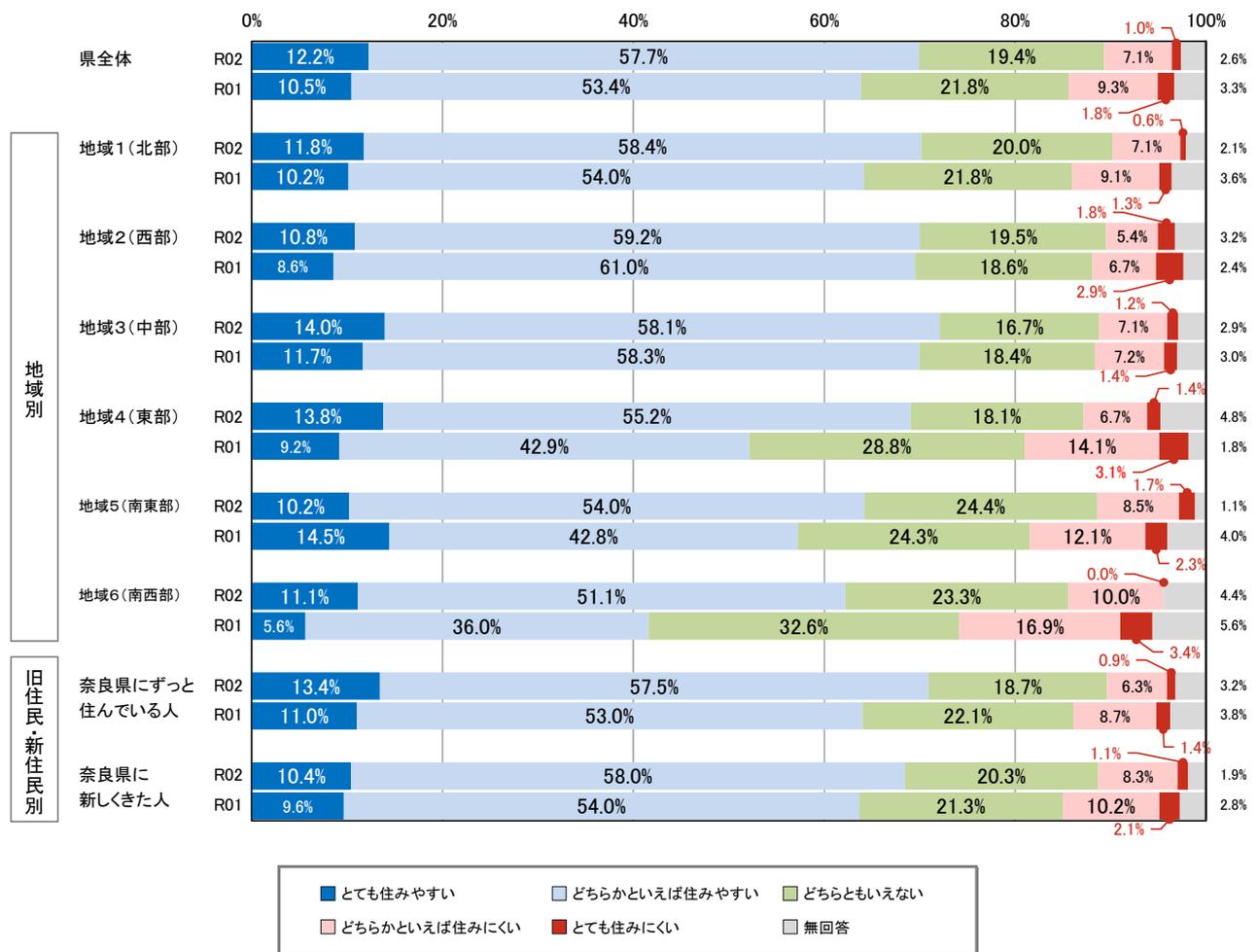
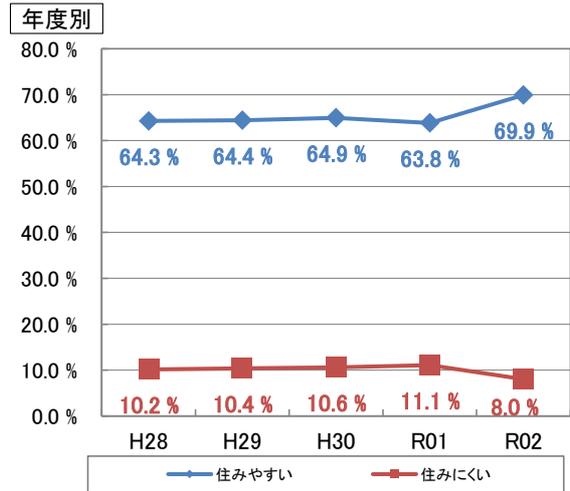
1-5 日頃の生活での悩みや不安の内容 (問6 5つ以内で複数回答 県全体についての上位5項目を掲載)

- 日頃の生活での悩みや不安の内容を尋ねたところ、「老後の生活設計について」(64.1%)が最も多く、次いで「自分の健康について」(62.7%)、「家族の健康について」(58.8%)、「今後の収入や資産の見通しについて」(47.3%)、「現在の収入や資産について」(44.1%)が多くなっています。
- 「老後の生活設計について」と答えた人については、ライフステージ別では『夫婦』が最も多く、旧住民・新住民別では『奈良県にずっと住んでいる人』が多くなっています。
- 「自分の健康について」と答えた人については、ライフステージ別では『単身高齢者』が最も多く、旧住民・新住民別では『奈良県に新しくきた人』が多くなっています。
- 「家族の健康について」と答えた人については、ライフステージ別では『高齢者夫婦』が最も多く、旧住民・新住民別では『奈良県にずっと住んでいる人』が多くなっています。
- 「今後の収入や資産の見通しについて」と答えた人については、ライフステージ別では『育児期』が最も多く、旧住民・新住民別では『奈良県にずっと住んでいる人』が多くなっています。
- 「現在の収入や資産について」と答えた人については、ライフステージ別では『育児期』が最も多く、旧住民・新住民別では『奈良県にずっと住んでいる人』が多くなっています。



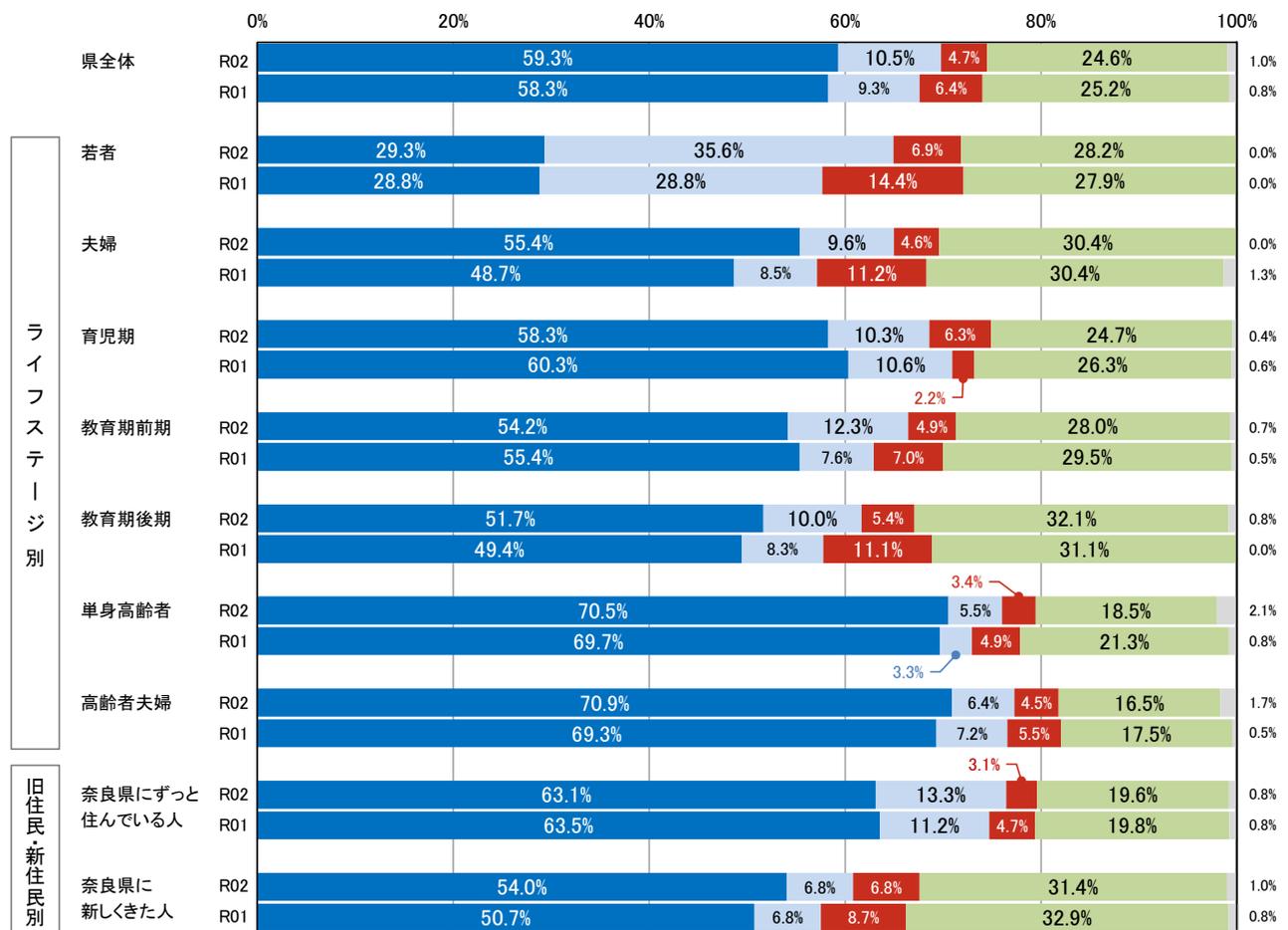
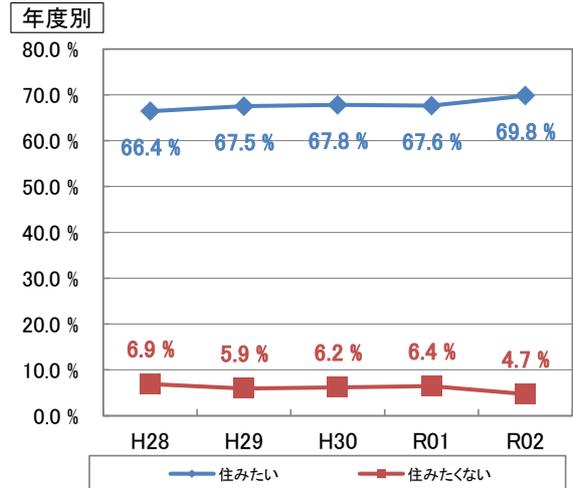
1-6 奈良県の住みやすさの評価（問7）

- 「住みやすい」（「とても住みやすい」+「どちらかといえば住みやすい」）と感じている人は、平成28年度から概ね横ばい傾向にありましたが、今回調査では令和元年度から6.1ポイント増加して69.9%となり過去5か年で最も高くなっています。
「住みにくい」（「どちらかといえば住みにくい」+「とても住みにくい」）と感じている人は、令和元年度から3.0ポイント減少し、8.0%となっています。
- 地域別でみると、「住みやすい」と感じている人は、『地域3（中部）』（72.1%）が最も多く、次いで『地域1（北部）』（70.2%）、『地域2（西部）』（70.0%）となっています。
- 旧住民・新住民別にみると、「住みやすい」と感じている人は、『奈良県にずっと住んでいる人』（70.9%）が『奈良県に新しくきた人』（68.4%）と比べ多くなっています。



1-7 将来の奈良県での定住意向（問8）

- 奈良県に「住みたい」（「ずっと住みたい」+「一度は県外へ出て、奈良県に戻って住みたい」と考えている人は、平成28年度から6割台後半で推移していますが、今回調査では令和元年度から2.2ポイント増加して69.8%となり、過去5か年で最も多くなっています。
- ライフステージ別にみると、奈良県に「ずっと住みたい」と考えている人が最も多いのは『高齢者夫婦』（70.9%）、最も少ないのは『若者』（29.3%）となっています。一方、「一度は県外へ出て、奈良県に戻って住みたい」と考えている人が最も多いのは『若者』（35.6%）となっています。
- 旧住民・新住民別にみると、奈良県に「住みたい」と考えている人は、『奈良県にずっと住んでいる人』（76.4%）が『奈良県に新しくきた人』（60.8%）と比べ多くなっています。



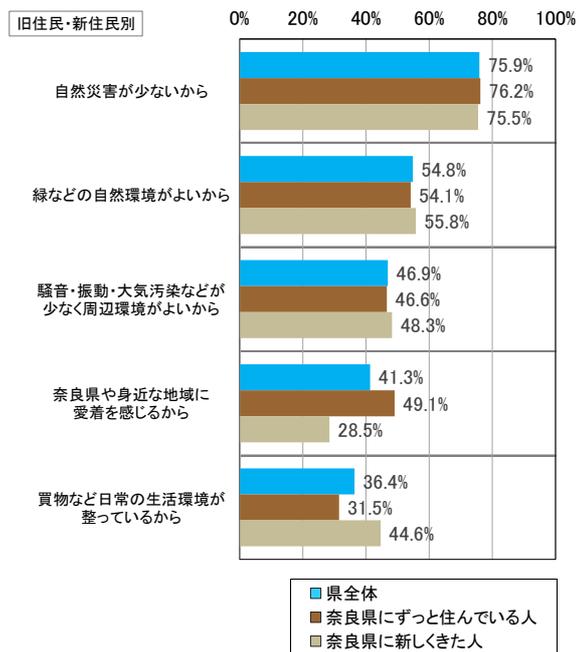
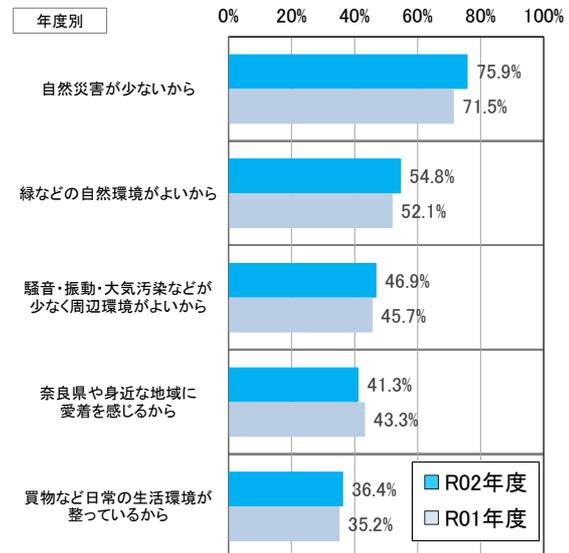
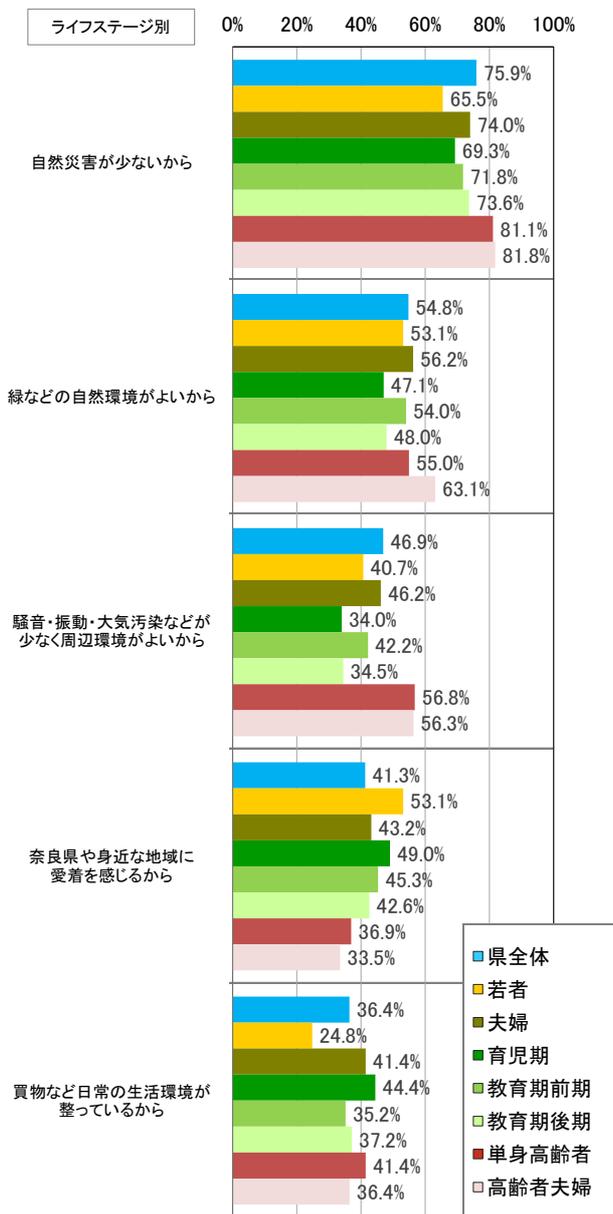
■ ずっと住みたい ■ 一度は県外へ出て、奈良県に戻って住みたい ■ 住みたくない ■ わからない ■ 無回答

※四捨五入の関係で内訳の合計が100%と一致しない場合があります。

1-8 将来的に奈良県に定住したい／したくない理由

(1) 将来的に奈良県に「ずっと住みたい」または「一度は県外へ出ても、奈良県に戻って住みたい」と答えた理由（問9 5つ以内で複数回答 県全体についての上位5項目を掲載）

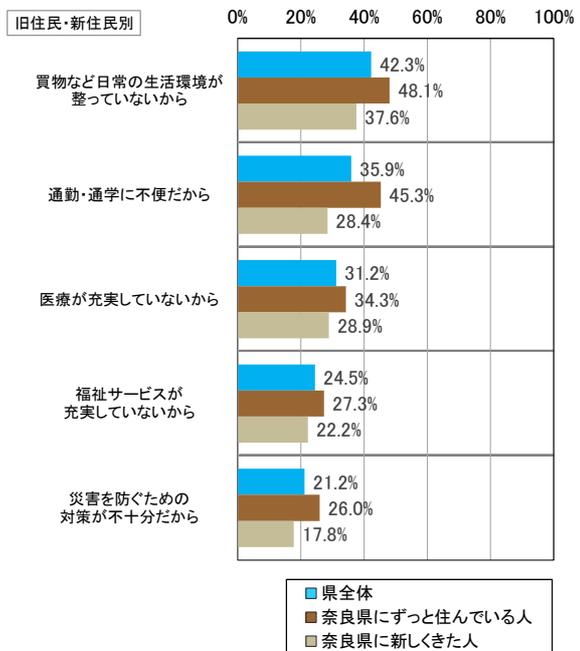
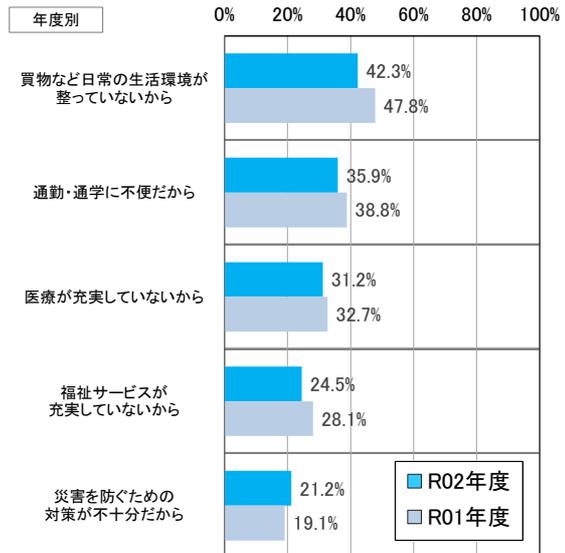
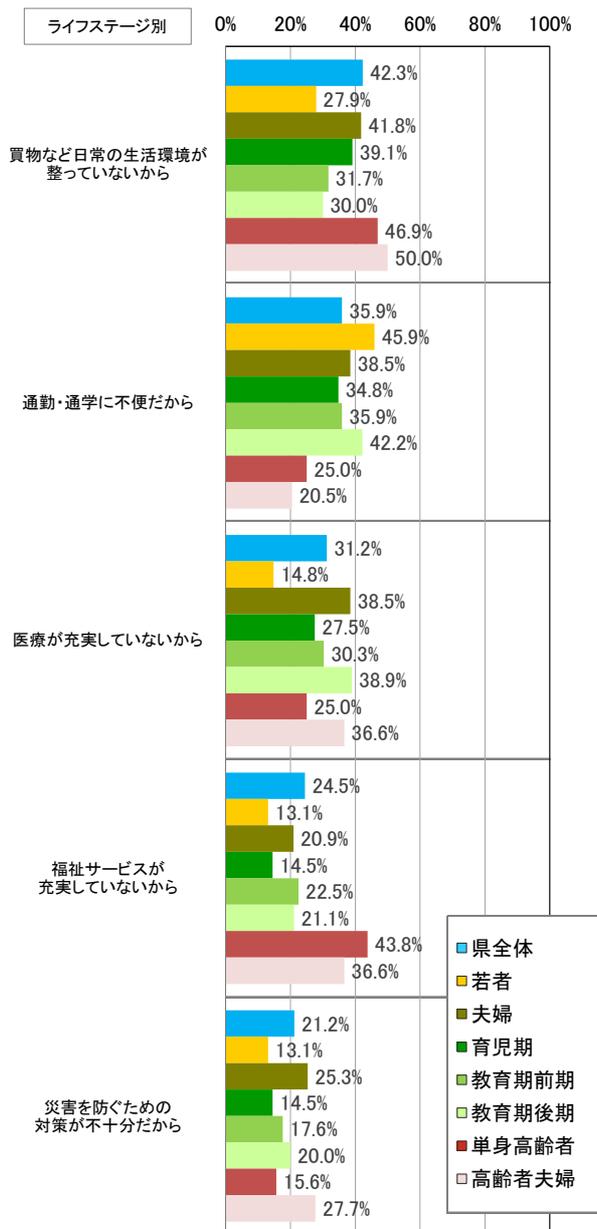
- 将来的に奈良県に「ずっと住みたい」または「一度は県外へ出ても、奈良県に戻って住みたい」と答えた理由を尋ねたところ、「自然災害が少ないから」(75.9%)が最も多く、次いで「緑などの自然環境がよいから」(54.8%)、「騒音・振動・大気汚染などが少なく周辺環境がよいから」(46.9%)、「奈良県や身近な地域に愛着を感じるから」(41.3%)、「買物など日常の生活環境が整っているから」(36.4%)が多くなっています。
- 「自然災害が少ないから」と答えた人については、ライフステージ別では『高齢者夫婦』が最も多く、旧住民・新住民別では『奈良県にずっと住んでいる人』が多くなっています。
- 「緑などの自然環境がよいから」と答えた人については、ライフステージ別では『高齢者夫婦』が最も多く、旧住民・新住民別では『奈良県に新しく来た人』が多くなっています。
- 「騒音・振動・大気汚染などが少なく周辺環境がよいから」と答えた人については、ライフステージ別では『単身高齢者』が最も多く、旧住民・新住民別では『奈良県に新しく来た人』が多くなっています。
- 「奈良県や身近な地域に愛着を感じるから」と答えた人については、ライフステージ別では『若者』が最も多く、旧住民・新住民別では『奈良県にずっと住んでいる人』が多くなっています。
- 「買物など日常の生活環境が整っているから」と答えた人については、ライフステージ別では『育児期』が最も多く、旧住民・新住民別では『奈良県に新しく来た人』が多くなっています。



(2) 将来的に奈良県に「住みたくない」または「わからない」と答えた理由

(問10 5つ以内で複数回答 県全体についての上位5項目を掲載)

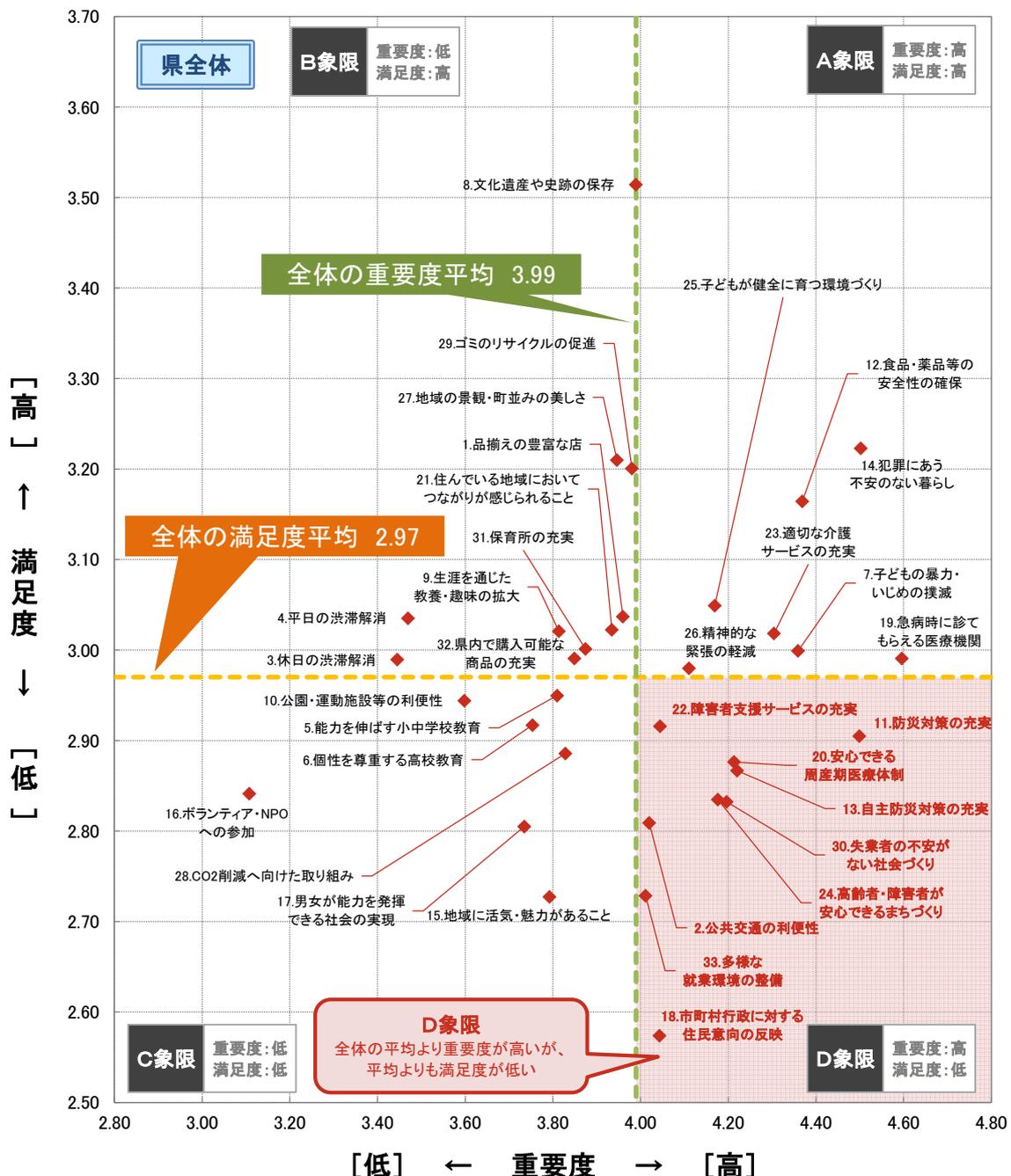
- 将来的に奈良県に「住みたくない」または「わからない」と答えた理由を尋ねたところ、「買物など日常生活環境が整っていないから」(42.3%)が最も多く、次いで「通勤・通学に不便だから」(35.9%)、「医療が充実していないから」(31.2%)、「福祉サービスが充実していないから」(24.5%)、「災害を防ぐための対策が不十分だから」(21.2%)が多くなっています。
- 「買物など日常生活環境が整っていないから」、「災害を防ぐための対策が不十分だから」と答えた人については、ライフステージ別では『高齢者夫婦』が最も多く、旧住民・新住民別では『奈良県にずっと住んでいる人』が多くなっています。
- 「通勤・通学に不便だから」と答えた人については、ライフステージ別では『若者』が最も多く、旧住民・新住民別では『奈良県にずっと住んでいる人』が多くなっています。
- 「医療が充実していないから」と答えた人については、ライフステージ別では『教育期後期』が最も多く、旧住民・新住民別では『奈良県にずっと住んでいる人』が多くなっています。
- 「福祉サービスが充実していないから」と答えた人については、ライフステージ別では『単身高齢者』が最も多く、旧住民・新住民別では『奈良県にずっと住んでいる人』が多くなっています。



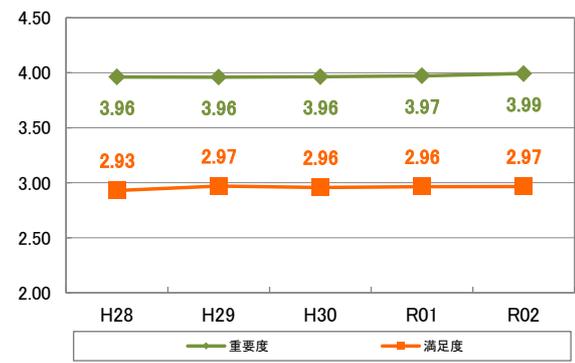
2. 県民の生活に関する重要度・満足度について(問13 5段階ポイント評価)

(1) 県全体

- 身近な生活に関する 33 項目それぞれの重要度と満足度を5点(高い)～1点(低い)の5段階(加重平均)で評価し、重要度と満足度の関係を整理しました。また、重要度と満足度の関係から課題・ニーズの大きさの指標となる「ニーズ得点」を算出しました。(次ページ参照) ニーズ得点は、重要度が高く、満足度が低い項目ほど高くなります。(「ニーズ得点= $\text{重要度(加重平均)} \times 6 - \text{満足度(加重平均)} >$ 」により算出。)
- 県全体では、「11. 防災対策の充実」、「18. 市町村行政に対する住民意向の反映」、「19. 急病時に診てもらえる医療機関」などのニーズ得点が高くなっています。
- 重要度でみると、「19. 急病時に診てもらえる医療機関」が最も高く、次いで「14. 犯罪にあう不安のない暮らし」、「11. 防災対策の充実」となっています。一方で、「16. ボランティア・NPOへの参加」は最も低く、次いで「3. 休日の渋滞解消」となっています。
- 満足度でみると、「8. 文化遺産や史跡の保存」が最も高く、次いで「14. 犯罪にあう不安のない暮らし」となっています。一方で、「18. 市町村行政に対する住民意向の反映」が最も低く、次いで「15. 地域に活気・魅力があること」「33. 多様な就業環境の整備」となっています。



■ 県民の身近な生活に関する 33 項目の重要度と満足度の平均値の推移をみると、重要度の平均値は平成 30 年度からやや上昇傾向となっています。また、満足度の平均値は平成 29 年度からはほぼ横ばいとなっています。



【身近な生活に関する 33 項目の重要度・満足度・ニーズ得点（5 年間の比較）】

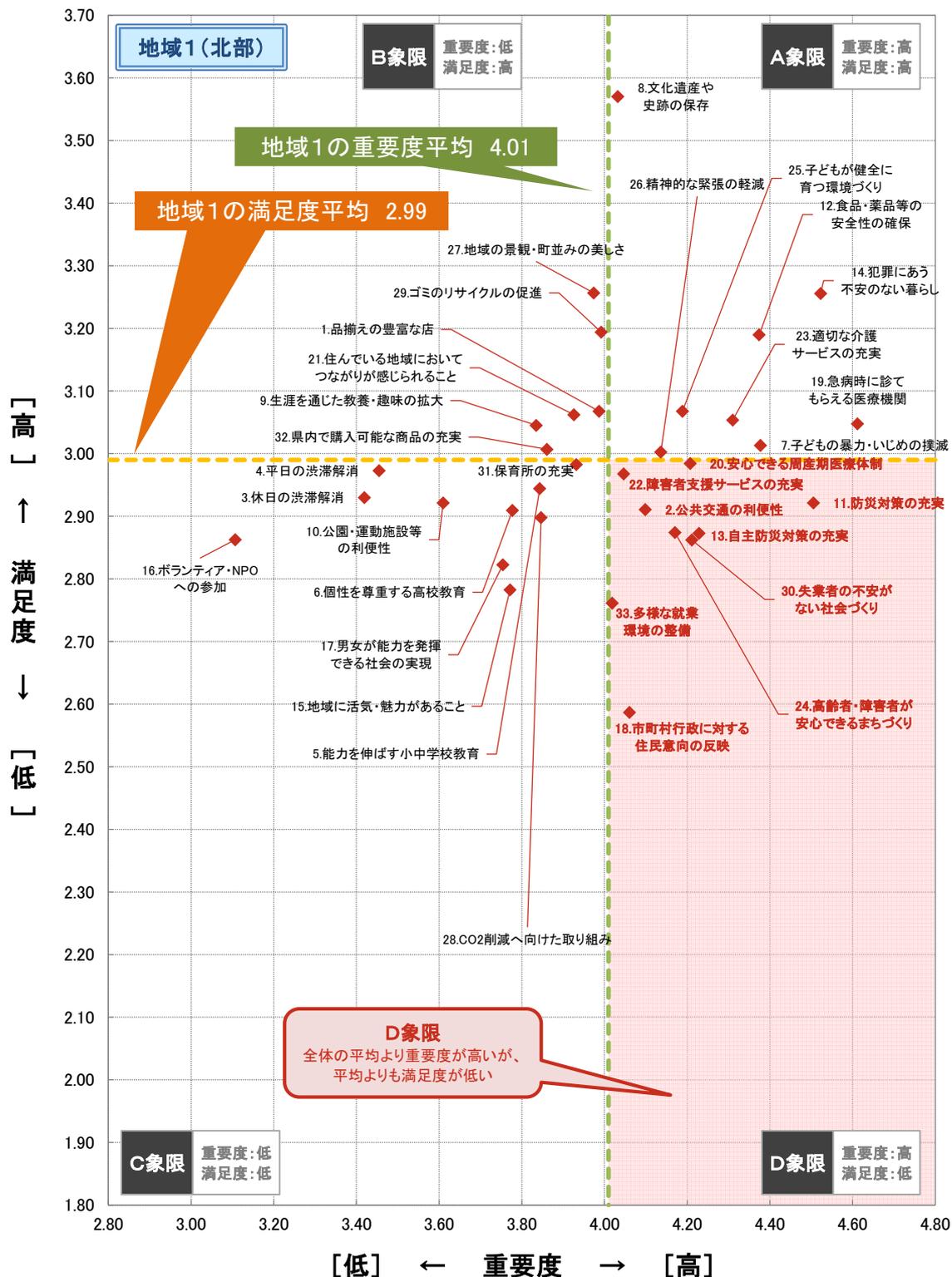
項目番号	項目	重要度					満足度					ニーズ得点					象限				
		R02	R01	H30	H29	H28	R02	R01	H30	H29	H28	R02	R01	H30	H29	H28	R02	R01	H30	H29	H28
1	品揃えの豊富な店が近くにあること	3.96	3.98	3.97	4.03	3.90	3.04	3.03	3.00	3.06	3.09	11.73	11.84	11.90	11.82	11.33	B	A	A	A	B
2	電車、バス、タクシーなどの公共的な交通機関が利用しやすいこと	4.02	4.19	4.13	4.12	4.11	2.81	2.79	2.84	2.89	3.01	12.83	13.45	13.06	12.80	12.28	D	D	D	D	A
3	休日の道路の渋滞が解消され、自動車での外出が快適なこと	3.45	3.35	3.42	3.37	3.42	2.99	3.01	2.97	2.96	2.98	10.37	10.02	10.35	10.23	10.32	B	B	B	C	B
4	平日の道路の渋滞が解消され、自動車での外出が快適なこと	3.47	3.39	3.43	3.38	3.38	3.04	3.08	3.06	3.07	3.08	10.29	9.92	10.06	9.91	9.88	B	B	B	B	B
5	小・中学校で子どもの能力を伸ばす教育が受けられること	3.81	3.81	3.82	3.85	3.84	2.95	2.95	2.96	2.96	2.96	11.62	11.63	11.62	11.70	11.67	C	C	B	C	B
6	高校で生徒一人ひとりに適した教育が受けられること	3.75	3.76	3.72	3.75	3.76	2.92	2.91	2.92	2.92	2.91	11.57	11.61	11.46	11.53	11.61	C	C	C	C	C
7	子どもたちが、暴力行為・いじめなどを行わないこと	4.36	4.40	4.36	4.43	4.42	3.00	3.01	3.01	2.99	2.94	13.08	13.19	13.04	13.34	13.55	A	A	A	A	A
8	文化遺産や史跡が大事にされること	3.99	3.96	3.97	4.03	3.96	3.51	3.57	3.51	3.55	3.58	9.92	9.60	9.87	9.84	9.59	B	B	A	A	A
9	生涯を通じて教養を高め、趣味を広げられること	3.81	3.78	3.77	3.78	3.77	3.02	3.00	3.03	3.03	3.02	11.36	11.34	11.20	11.23	11.23	B	B	B	B	B
10	公園や運動施設・グラウンドなどが利用しやすいこと	3.60	3.51	3.52	3.52	3.53	2.94	2.90	2.95	2.96	2.92	11.00	10.89	10.73	10.70	10.88	C	C	C	C	C
11	地震、台風、火災などへの対策がしっかりとれていること	4.50	4.44	4.38	4.39	4.42	2.90	2.89	2.91	2.93	2.83	13.92	13.81	13.55	13.49	14.02	D	D	D	D	D
12	食品や薬品などの商品・サービスの安全性が確保されていること	4.37	4.28	4.28	4.27	4.29	3.16	3.21	3.16	3.20	3.18	12.39	11.94	12.13	11.98	12.12	A	A	A	A	A
13	家庭や地域において、地震などの自然災害に対する自主的な備えができていること	4.22	4.19	4.14	4.16	4.19	2.87	2.84	2.79	2.79	2.72	13.22	13.25	13.31	13.35	13.76	D	D	D	D	D
14	住民が犯罪に遭うことがなく、その不安も感じることなく暮らせること	4.50	4.51	4.48	4.50	4.50	3.22	3.22	3.16	3.20	3.14	12.50	12.56	12.76	12.61	12.90	A	A	A	A	A
15	自分が住んでいる地域に活気があり、魅力のある地域になっていること	3.79	3.78	3.79	3.80	3.79	2.73	2.72	2.69	2.73	2.69	12.41	12.41	12.53	12.42	12.56	C	C	C	C	C
16	ボランティア・NPO活動に気軽に参加できること	3.11	3.03	3.05	3.03	3.03	2.84	2.84	2.84	2.85	2.84	9.82	9.58	9.63	9.55	9.58	C	C	C	C	C
17	男女がそれぞれの個性と能力を十分に発揮できる社会が実現すること	3.73	3.69	3.68	3.65	3.67	2.81	2.78	2.77	2.82	2.78	11.93	11.86	11.90	11.60	11.82	C	C	C	C	C
18	市町村の政治に住民の要望や意見が十分採り入れられること	4.04	4.02	3.98	3.96	4.00	2.57	2.56	2.58	2.61	2.53	13.85	13.83	13.63	13.41	13.88	D	D	D	C	D
19	急病時に診てもらえる医療機関があること	4.60	4.58	4.57	4.58	4.57	2.99	3.00	3.01	2.95	2.84	13.83	13.73	13.67	13.95	14.43	A	A	A	D	D
20	安心して子どもを出産できる医療体制が整っていること	4.21	4.23	4.21	4.22	4.24	2.88	2.85	2.80	2.83	2.78	13.16	13.32	13.47	13.40	13.66	D	D	D	D	D
21	住んでいる地域において、互いに見守り、助け合うなどつながりが感じられること	3.93	3.98	3.99	3.98	3.92	3.02	3.05	3.00	3.04	2.98	11.72	11.74	11.99	11.77	11.87	B	A	A	A	B
22	障害者が住み慣れた地域で自分に合った支援サービスを受けられること	4.04	4.02	4.03	4.01	3.99	2.92	2.92	2.88	2.90	2.88	12.47	12.40	12.56	12.44	12.48	D	D	D	D	D
23	高齢者やその家族が住み慣れた地域で適切な介護サービスを受けられること	4.30	4.32	4.31	4.29	4.26	3.02	2.98	2.97	2.98	2.92	12.83	13.06	13.04	12.97	13.11	A	A	A	A	D
24	高齢者や障害者が安心してまちに出かけられること	4.18	4.17	4.16	4.14	4.12	2.83	2.77	2.82	2.83	2.80	13.22	13.47	13.22	13.13	13.20	D	D	D	D	D
25	地域・家庭・学校が一体となって、子どもが健全に育つ環境づくりを行っていること	4.17	4.15	4.18	4.15	4.15	3.05	3.03	3.04	3.04	2.98	12.30	12.35	12.40	12.28	12.54	A	A	A	A	A
26	イライラやストレスなど精神的緊張が少ないこと	4.11	4.05	4.05	4.03	4.06	2.98	2.97	2.97	2.99	2.92	12.41	12.25	12.26	12.14	12.50	A	A	A	A	D
27	自分の住む地域の景観や町並みが美しいこと	3.95	3.91	3.92	3.91	3.90	3.21	3.21	3.21	3.26	3.19	11.01	10.94	10.95	10.74	10.97	B	B	B	B	B
28	一人ひとりが普段の生活においてCO2削減に取り組むこと	3.83	3.77	3.71	3.68	3.67	2.89	2.87	2.89	2.89	2.86	11.92	11.79	11.54	11.44	11.52	C	C	C	C	C
29	ゴミのリサイクルのしくみが整っていること	3.98	3.97	3.95	3.86	3.84	3.20	3.23	3.26	3.26	3.15	11.14	11.01	10.82	10.56	10.96	B	A	B	B	B
30	失業の不安がなく働けること	4.20	4.17	4.15	4.16	4.22	2.83	2.83	2.82	2.81	2.73	13.29	13.19	13.18	13.29	13.82	D	D	D	D	D
31	保育所の数や定員を増やすことにより、待機児童を解消すること	3.87	3.88	3.90	3.88	3.93	3.00	3.01	3.00	3.00	2.90	11.62	11.58	11.69	11.64	12.18	B	B	B	B	C
32	県内で買いたいものが販売されていること	3.85	3.79	3.80	3.79	3.81	2.99	3.04	2.99	2.99	2.94	11.58	11.22	11.43	11.42	11.67	B	B	B	B	B
33	いろいろな働き方が用意され、自分の生活に合った就業ができること	4.01	4.00	3.95	3.96	4.03	2.73	2.72	2.71	2.67	2.59	13.12	13.10	13.01	13.18	13.72	D	D	C	C	D

(注) 重要度と満足度の関係)の各年度のA～Dの記号の対応については、前ページのA～D象限に対応している。網掛けした項目は満足度が当該年度の全項目の平均値を下回るもの(C象限・D象限)であり、濃い網掛けはそのうち重要度が平均値を上回るもの(D象限)、すなわち重要度が高いにもかかわらず満足度が低い項目である。

(2) 地域別

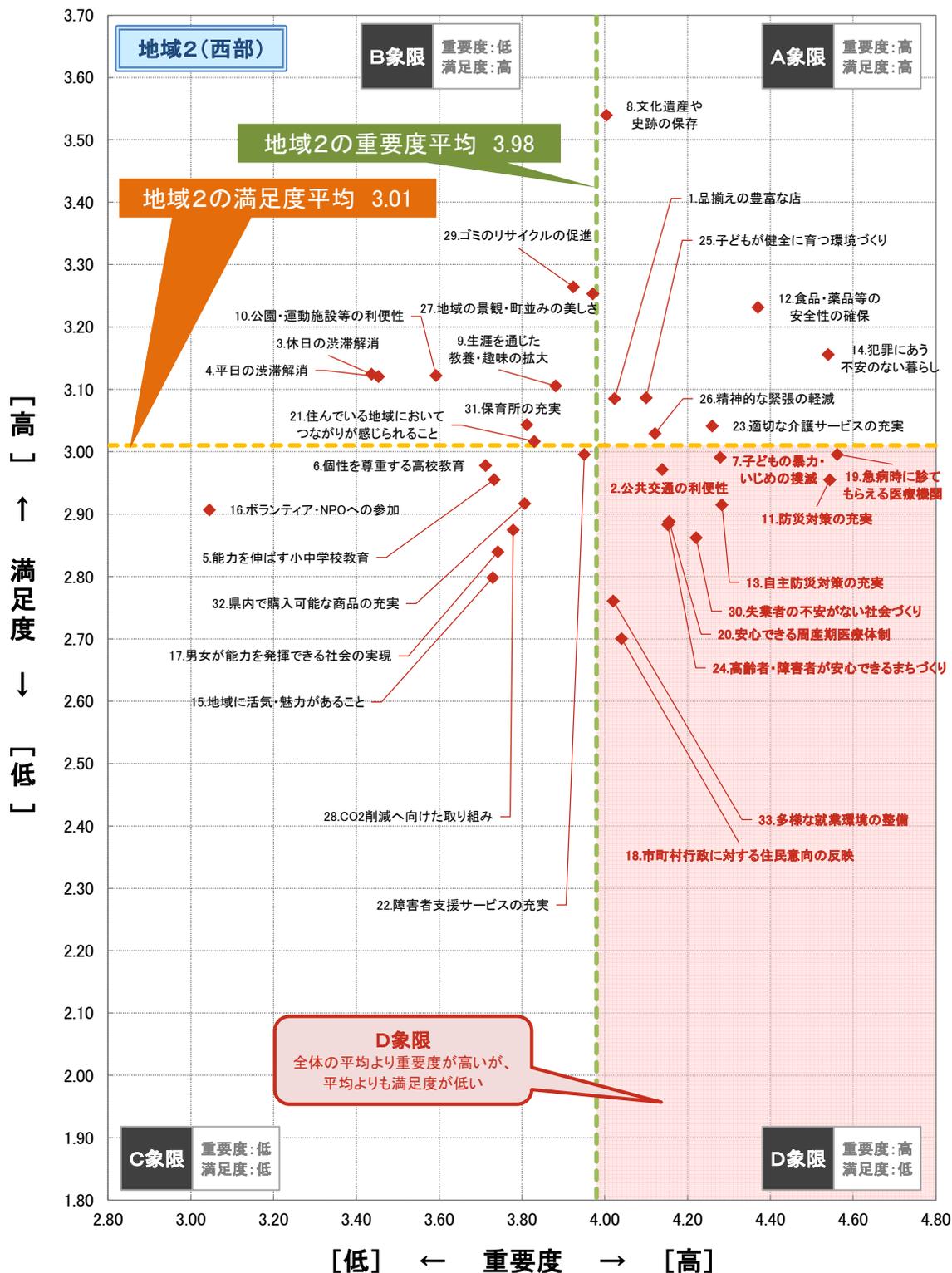
①地域1（北部）

- 『地域1(北部)』では、「11. 防災対策の充実」、「18. 市町村行政に対する住民意向の反映」、「19. 急病時に診てもらえる医療機関」などのニーズ得点が高くなっています。
- 重要度でみると、「19. 急病時に診てもらえる医療機関」が最も高く、次いで「14. 犯罪にあう不安のない暮らし」となっています。一方で、「16. ボランティア・NPOへの参加」は最も低く、次いで「3. 休日の渋滞解消」となっています。
- 満足度でみると、「8. 文化遺産や史跡の保存」が最も高く、次いで「14. 犯罪にあう不安のない暮らし」「27. 地域の景観・町並みの美しさ」となっています。一方で、「18. 市町村行政に対する住民意向の反映」が最も低く、次いで「33. 多様な就業環境の整備」となっています。



②地域2（西部）

- 『地域2（西部）』では、「11. 防災対策の充実」、「19. 急病時に診てもらえる医療機関」、「18. 市町村行政に対する住民意向の反映」などのニーズ得点が高くなっています。
- 重要度でみると、「19. 急病時に診てもらえる医療機関」が最も高く、次いで「11. 防災対策の充実」「14. 犯罪にあう不安のない暮らし」となっています。一方で、「16. ボランティア・NPOへの参加」は最も低く、次いで「3. 休日の渋滞解消」となっています。
- 満足度でみると、「8. 文化遺産や史跡の保存」が最も高く、次いで「29. ゴミのリサイクルの促進」となっています。一方で、「18. 市町村行政に対する住民意向の反映」が最も低く、次いで「33. 多様な就業環境の整備」となっています。

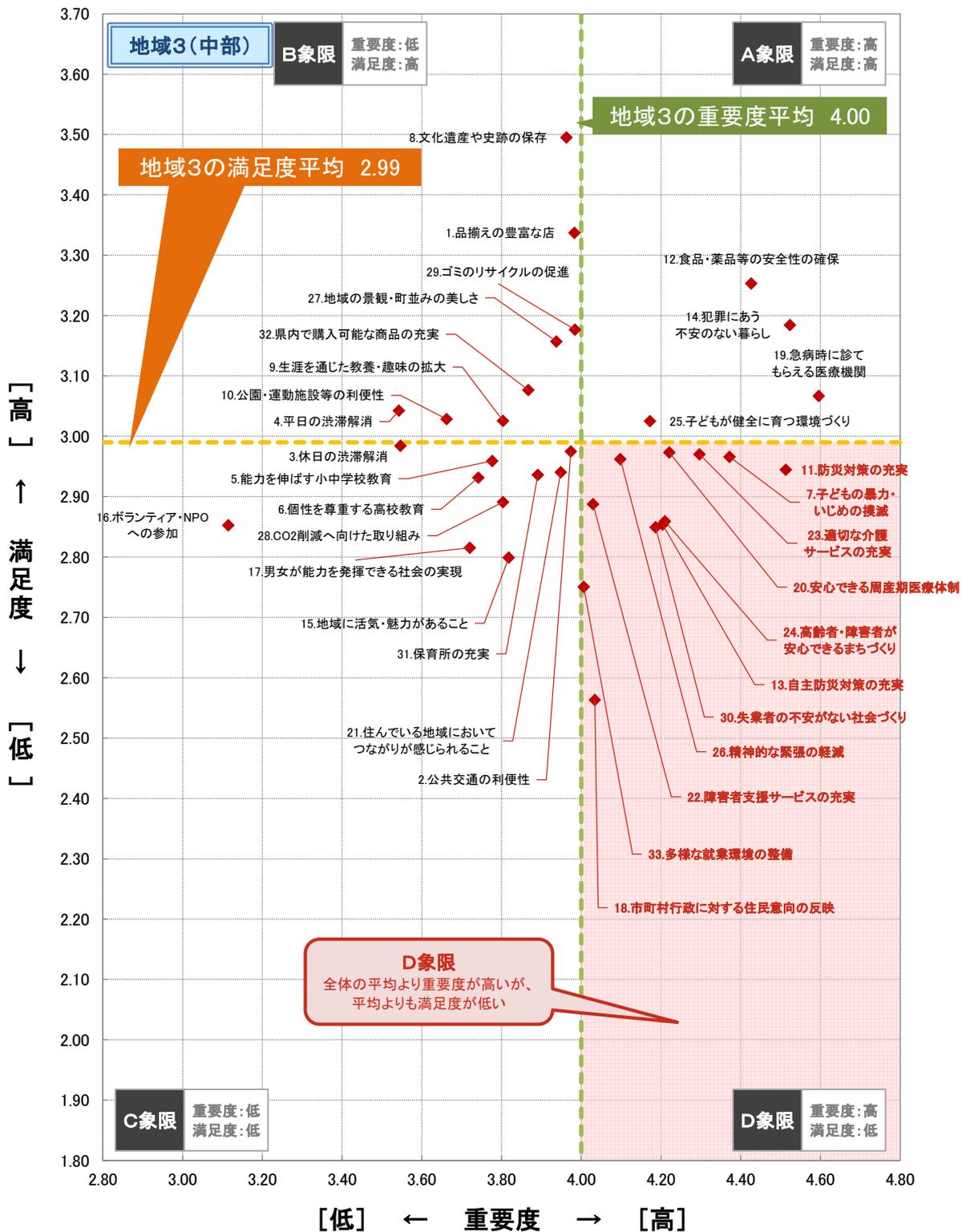


③地域3（中部）

■『地域3(中部)』では、「18. 市町村行政に対する住民意向の反映」、「11. 防災対策の充実」、「19. 急病時に診てもらえる医療機関」などのニーズ得点が高くなっています。

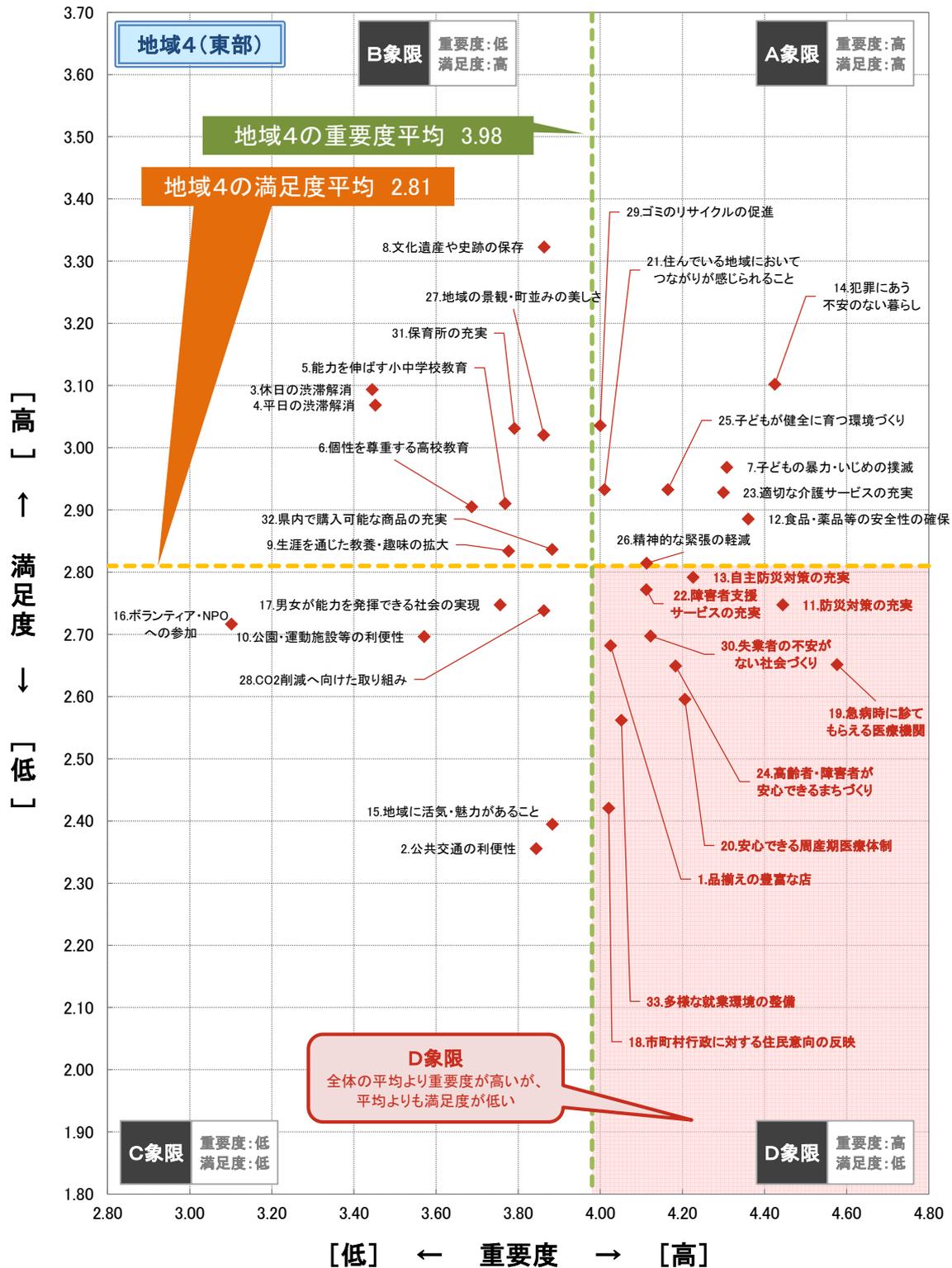
■重要度でみると、「19. 急病時に診てもらえる医療機関」が最も高く、次いで「14. 犯罪にあう不安のない暮らし」となっています。一方で、「16. ボランティア・NPOへの参加」は最も低く、次いで「4. 平日の渋滞解消」となっています。

■満足度でみると、「8. 文化遺産や史跡の保存」が最も高く、次いで「1. 品揃えの豊富な店」となっています。一方で、「18. 市町村行政に対する住民意向の反映」が最も低く、次いで「33. 多様な就業環境の整備」となっています。



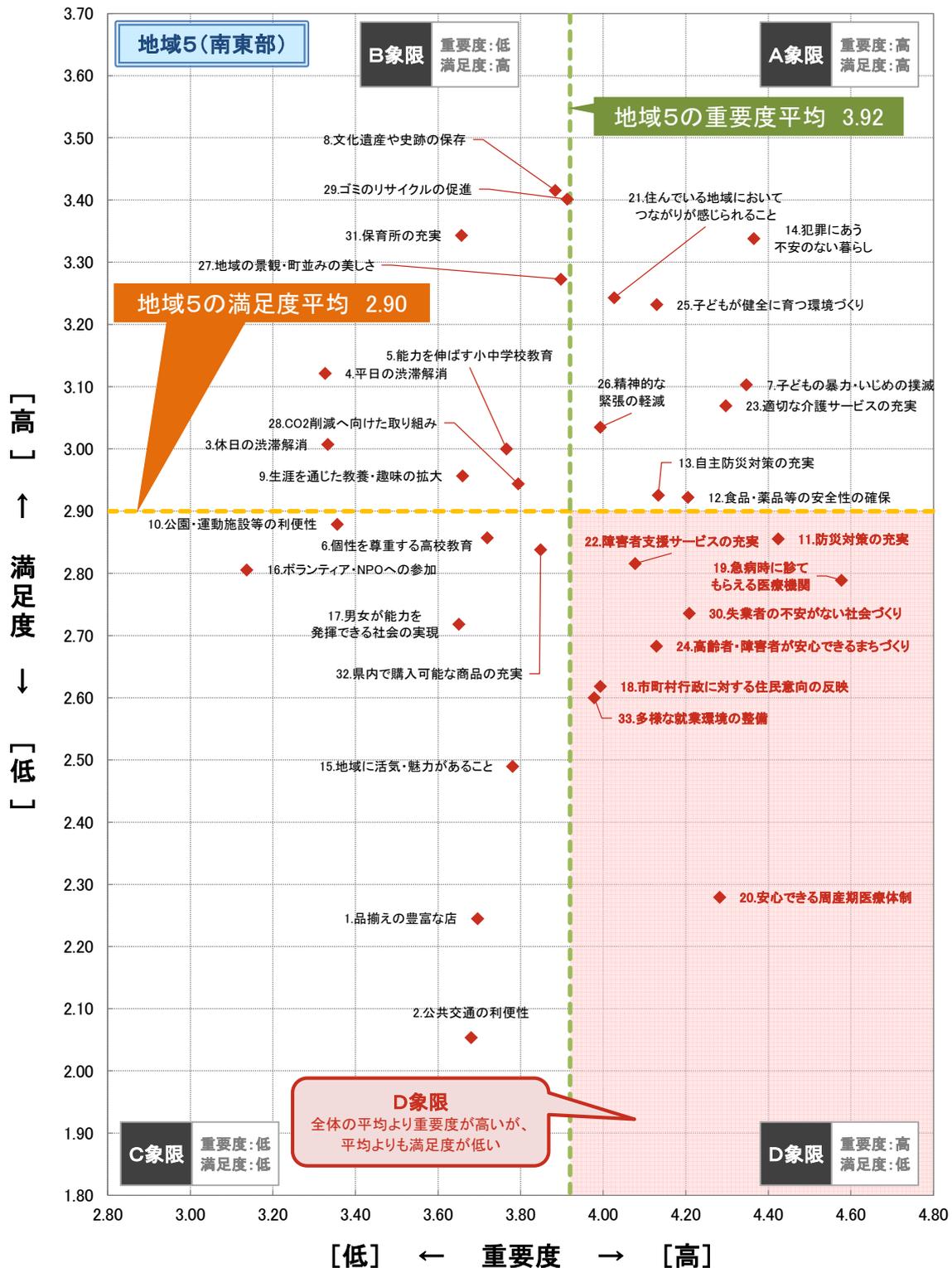
④地域4（東部）

- 『地域4（東部）』では、「19. 急病時に診てもらえる医療機関」、「11. 防災対策の充実」「18. 市町村行政に対する住民意向の反映」などのニーズ得点が高くなっています。
- 重要度でみると、「19. 急病時に診てもらえる医療機関」が最も高く、次いで「11. 防災対策の充実」となっています。一方で、「16. ボランティア・NPOへの参加」は最も低く、次いで「3. 休日の渋滞解消」となっています。
- 満足度でみると、「8. 文化遺産や史跡の保存」が最も高く、次いで「14. 犯罪にあう不安のない暮らし」となっています。一方で、「2. 公共交通の利便性」が最も低く、次いで「15. 地域に活気・魅力があること」となっています。



⑤地域5（南東部）

- 『地域5(南東部)』では、「20. 安心できる周産期医療体制」、「19. 急病時に診てもらえる医療機関」、「2. 公共交通の利便性」などのニーズ得点が高くなっています。
- 重要度でみると、「19. 急病時に診てもらえる医療機関」が最も高く、次いで「11. 防災対策の充実」となっています。一方で、「16. ボランティア・NPOへの参加」は最も低く、次いで「3. 休日の渋滞解消」「4. 平日の渋滞解消」となっています。
- 満足度でみると、「8. 文化遺産や史跡の保存」が最も高く、次いで「29. ゴミのリサイクルの促進」となっています。一方で、「2. 公共交通の利便性」が最も低く、次いで「1. 品揃えの豊富な店」となっています。

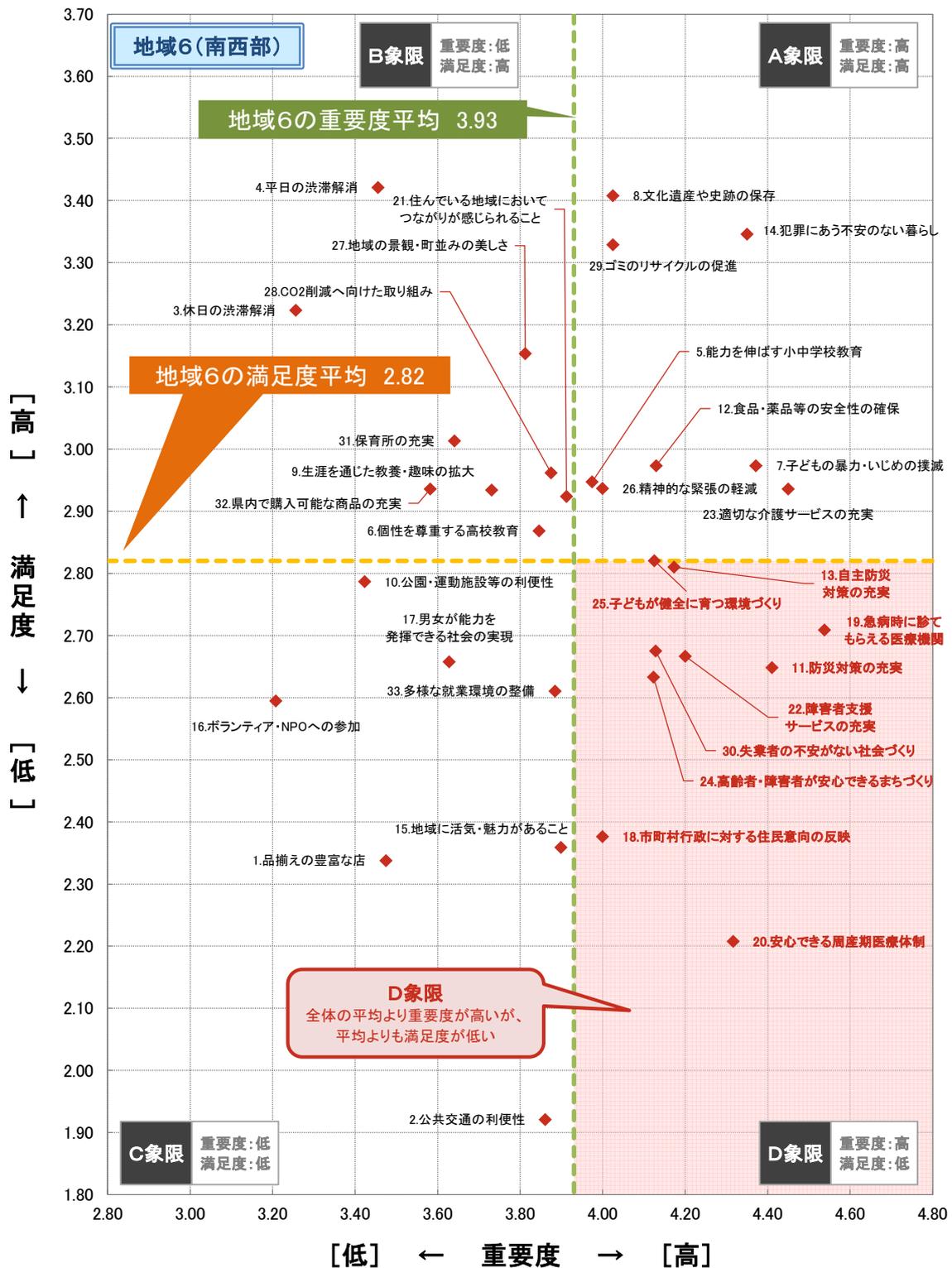


⑥地域6（南西部）

■『地域6(南西部)』では、「20. 安心できる周産期医療体制」、「2. 公共交通の利便性」、「19. 急病時に診てもらえる医療機関」などのニーズ得点が高くなっています。

■重要度でみると、「19. 急病時に診てもらえる医療機関」が最も高く、次いで「23. 適切な介護サービスの充実」となっています。一方で、「16. ボランティア・NPOへの参加」は最も低く、次いで「3. 休日の渋滞解消」となっています。

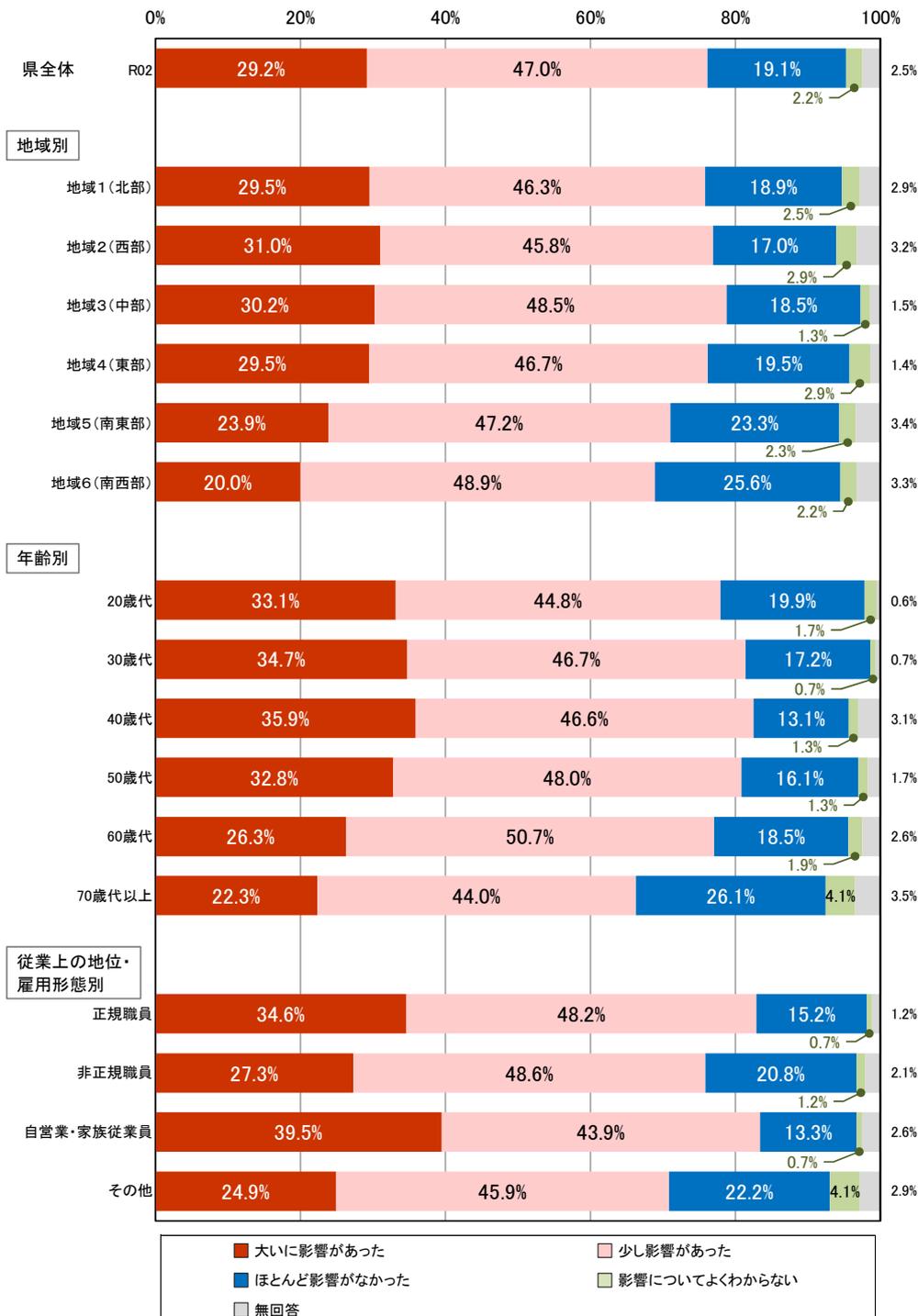
■満足度でみると、「4. 平日の渋滞解消」が最も高く、次いで「8. 文化遺産や史跡の保存」となっています。一方で、「2. 公共交通の利便性」が最も低く、次いで「20. 安心できる周産期医療体制」となっています。



3. 新型コロナウイルス感染症の影響

(1) 新型コロナウイルス感染症の暮らし向きへの影響 (問 11)

- 新型コロナウイルス感染症の暮らし向きへの影響については、「影響があった」(「大いに影響があった」+「少し影響があった」)人は76.1%となっています。
- 地域別にみると、「影響があった」人が最も多いのは『地域3(中部)』(78.8%)で、次いで『地域2(西部)』(76.9%)となっています。一方、『地域6(南西部)』では、「影響があった」人は68.9%と、唯一7割未満と少なくなっています。
- 「影響があった」人の割合を年齢別にみると、『40歳代』(82.5%)が最も多く、次いで『30歳代』(81.4%)となっています。一方、『70歳代以上』では、「影響があった」人は66.3%と、唯一7割未満となっています。
- 「影響があった」人の割合を従業上の地位・雇用形態別にみると、『自営業・家族従業員』(83.4%)が最も多く、次いで『正規職員』(82.9%)となっています。

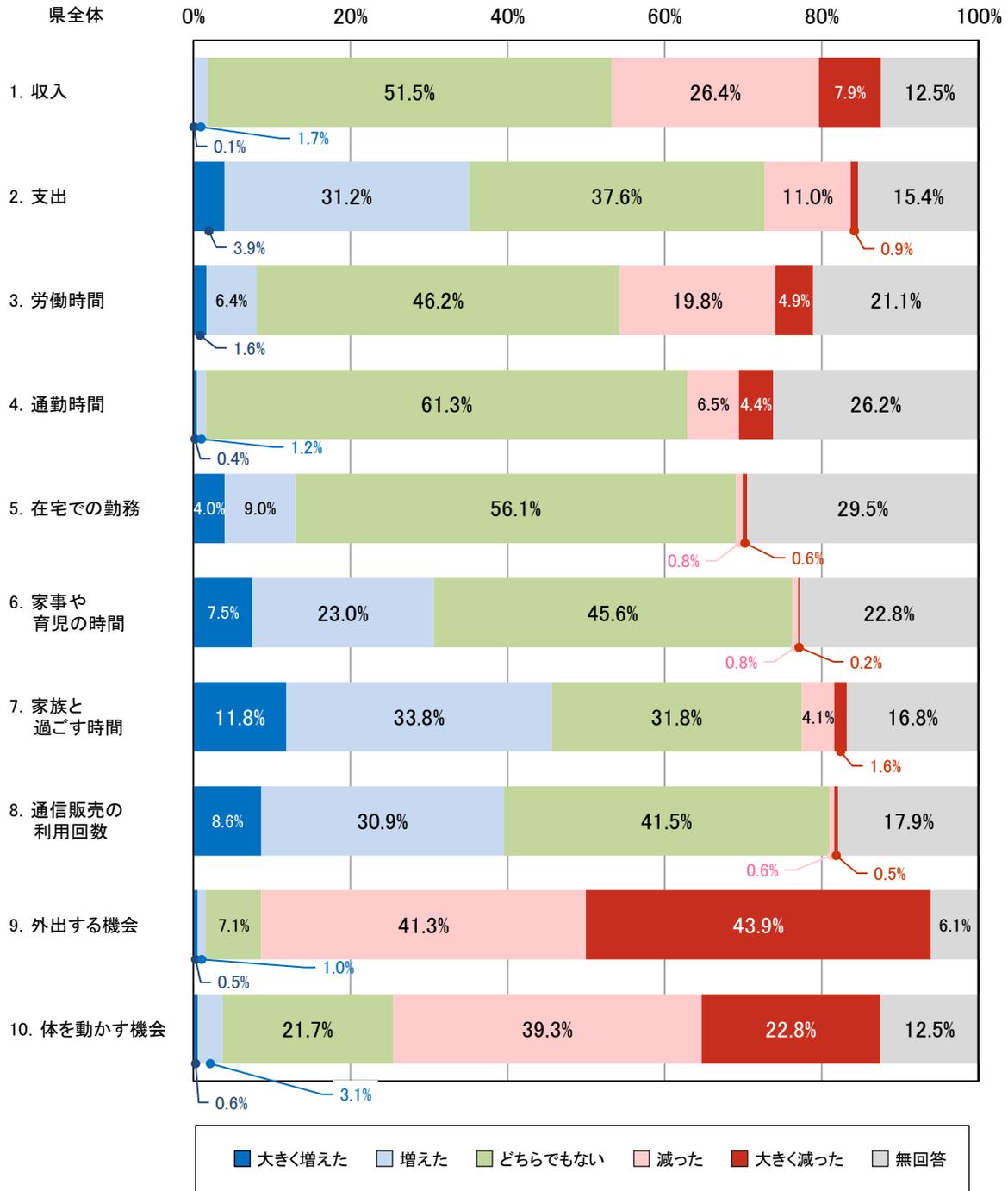


※四捨五入の関係で内訳の合計が100%と一致しない場合があります。

(2) 具体的な影響 (問 12 1~10 県全体)

■新型コロナウイルス感染症による具体的な10項目の影響については、「増えた」(「大きく増えた」+「増えた」)と答えた人は「7. 家族と過ごす時間」が45.6%で最も多く、次いで「8. 通信販売の利用回数」(39.5%)、「2. 支出」(35.1%)が多くなっています。

■一方、「減った」(「大きく減った」+「減った」)人は「9. 外出する機会」が85.2%で最も多く、次いで「10. 体を動かす機会」(62.0%)、「1. 収入」(34.3%)、「3. 労働時間」(24.6%)が多くなっています。



※四捨五入の関係で内訳の合計が100%と一致しない場合があります。

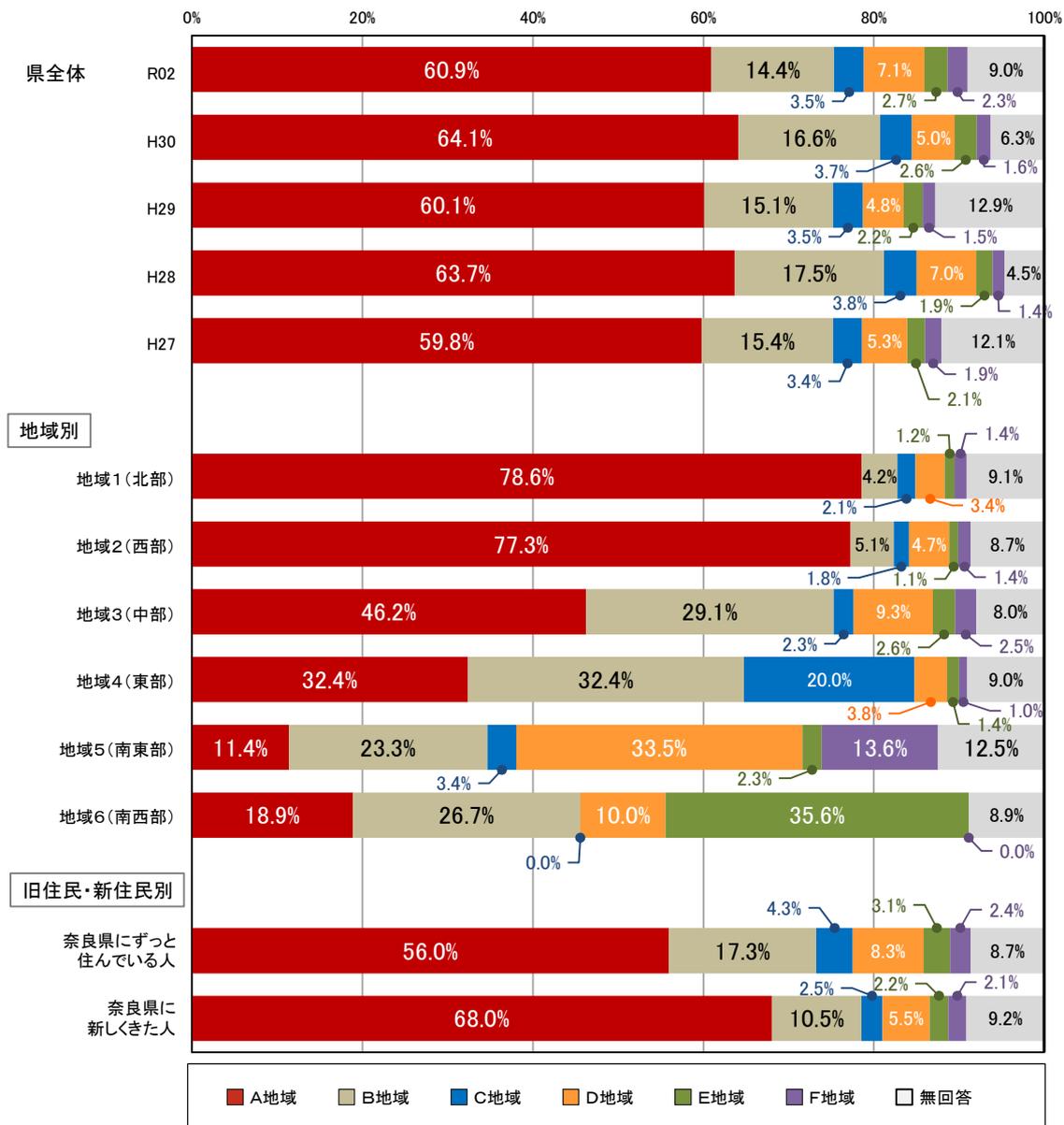
※全ての設問は職の有無にかかわらず集計しています。

4～11. 県民の生活に関する意識やニーズについて 【『奈良新『都』づくり戦略2020』との対応】

4. 観光について【賑わう「都」をつくる】

(1) 知人等をもてなすために観光・レクリエーションに出かける地域（問14）

- 知人等をもてなすために観光・レクリエーションに出かける地域について尋ねたところ、「A地域」(60.9%)が最も多く、次いで「B地域」(14.4%)となっています。
- 平成27～平成30年度と比較すると、割合の差はありますが、各年度ともに「A地域」、「B地域」、「D地域」の順で多くなっています。
- 地域別にみると、『地域1(北部)』、『地域2(西部)』、『地域3(中部)』では「A地域」、『地域4(東部)』では「A地域」と「B地域」、『地域5(南東部)』では「D地域」、『地域6(南西部)』では「E地域」が最も多くなっています。
- 旧住民・新住民別にみると、旧住民・新住民ともに「A地域」が最も多くなっていますが、『奈良県に新しくきた人』(68.0%)が『奈良県にずっと住んでいる人』(56.0%)と比べ多くなっています。一方、「B地域」「C地域」「D地域」「E地域」「F地域」については、『奈良県にずっと住んでいる人』の方が、『奈良県に新しくきた人』と比べ多くなっています。



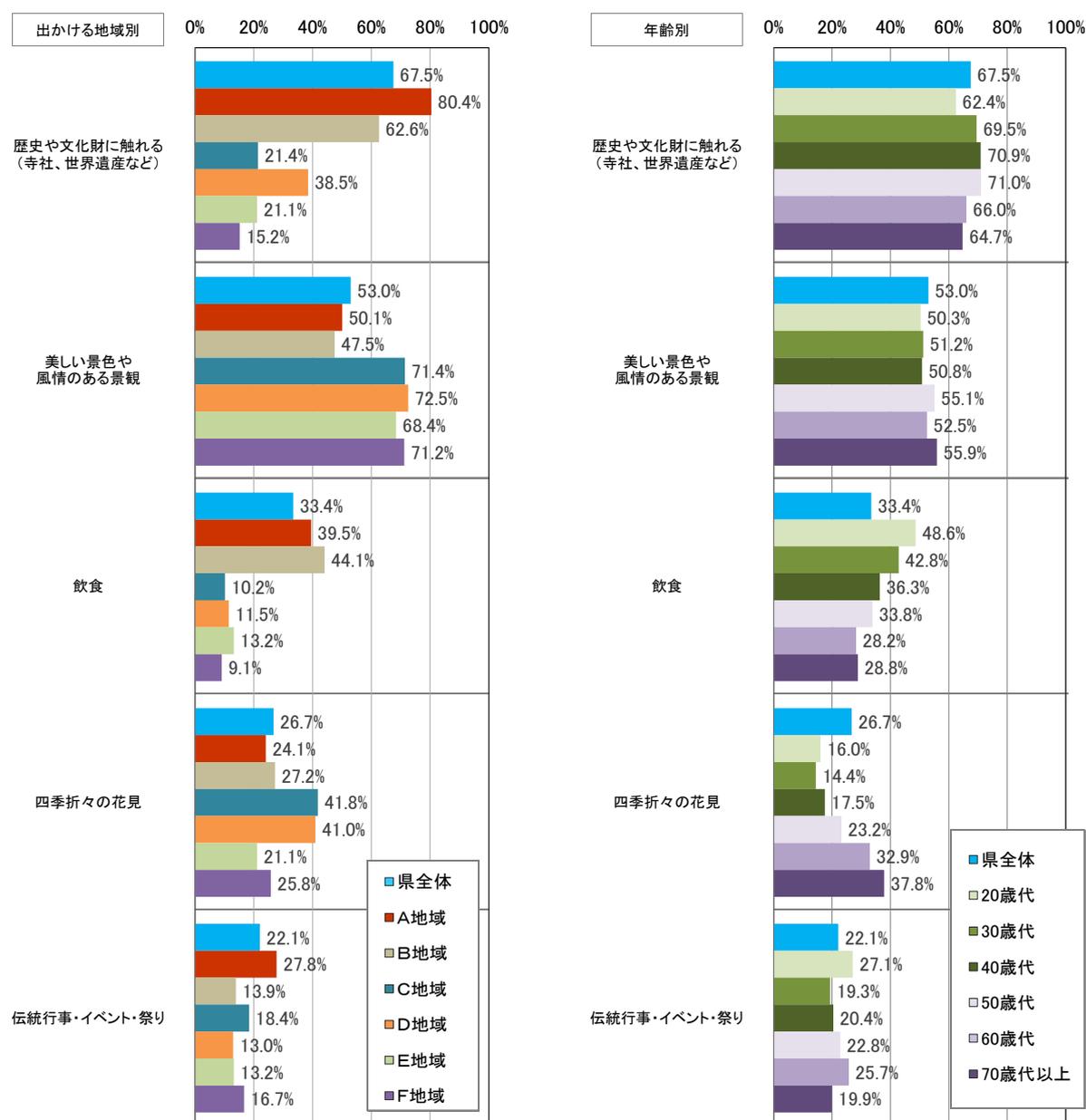
※四捨五入の関係で内訳の合計が100%と一致しない場合があります。

A地域: 奈良市、生駒市、天理市、大和郡山市、香芝市、平群町、三郷町、王寺町、斑鳩町、広陵町、山添村、安堵町、上牧町、河合町
 B地域: 大和高田市、橿原市、葛城市、桜井市、御所市、明日香村、高取町、川西町、田原本町、三宅町
 C地域: 宇陀市、曾爾村、御杖村、東吉野村
 D地域: 吉野町、大淀町、下市町、黒滝村、天川村
 E地域: 五條市、野迫川村、十津川村
 F地域: 川上村、上北山村、下北山村

(2) 問 14 の地域へ観光・レクリエーションに出かける目的

(問 15 4 つ以内で複数回答 県全体についての上位 5 項目を掲載)

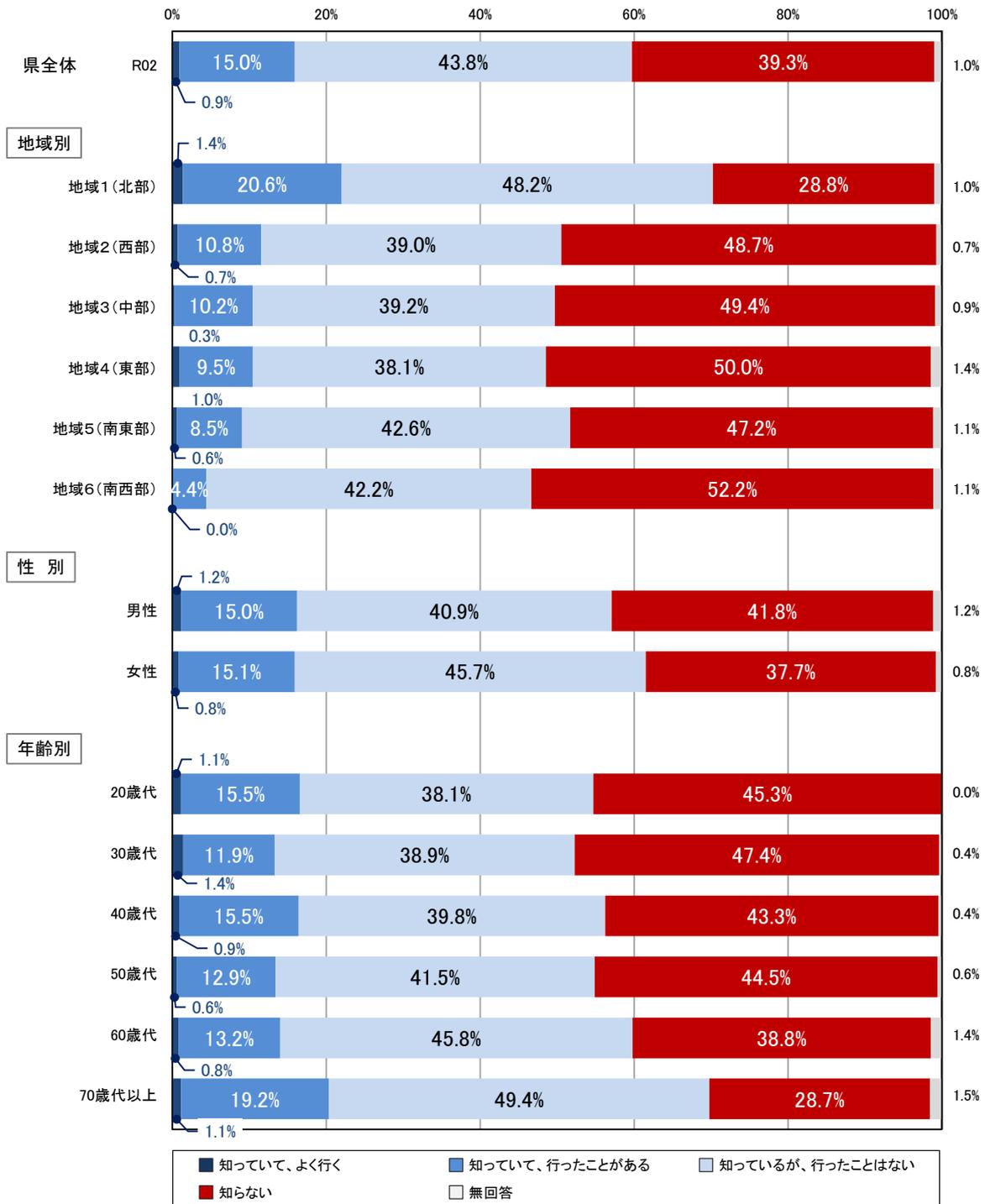
- 問 14 の地域へ観光・レクリエーションに出かける目的について尋ねたところ、「歴史や文化財に触れる(寺社、世界遺産など)」(67.5%)が最も多く、次いで「美しい景色や風情のある景観」(53.0%)、「飲食」(33.4%)、「四季折々の花見」(26.7%)、「伝統行事・イベント・祭り」(22.1%)となっています。
- 「歴史や文化財に触れる(寺社、世界遺産など)」と答えた人については、出かける地域別では『A地域』、年齢別では『50 歳代』が最も多くなっています。
- 「美しい景色や風情のある景観」と答えた人については、出かける地域別では『D地域』、年齢別では『70 歳代以上』が最も多くなっています。
- 「飲食」と答えた人については、出かける地域別では『B地域』、年齢別では『20 歳代』が最も多くなっています。
- 「四季折々の花見」と答えた人については、出かける地域別では『C地域』、年齢別では『70 歳代以上』が最も多くなっています。
- 「伝統行事・イベント・祭り」と答えた人については、出かける地域別では『A地域』、年齢別では『20 歳代』が最も多くなっています。



A地域: 奈良市、生駒市、天理市、大和郡山市、香芝市、平群町、三郷町、王寺町、斑鳩町、広陵町、山添村、安堵町、上牧町、河合町
 B地域: 大和高田市、橿原市、葛城市、桜井市、御所市、明日香村、高取町、川西町、田原本町、三宅町
 C地域: 宇陀市、曾爾村、御杖村、東吉野村
 D地域: 吉野町、大淀町、下市町、黒滝村、天川村
 E地域: 五條市、野迫川村、十津川村
 F地域: 川上村、上北山村、下北山村

(3) 「平城京天平祭」の認知・来場状況 (問18)

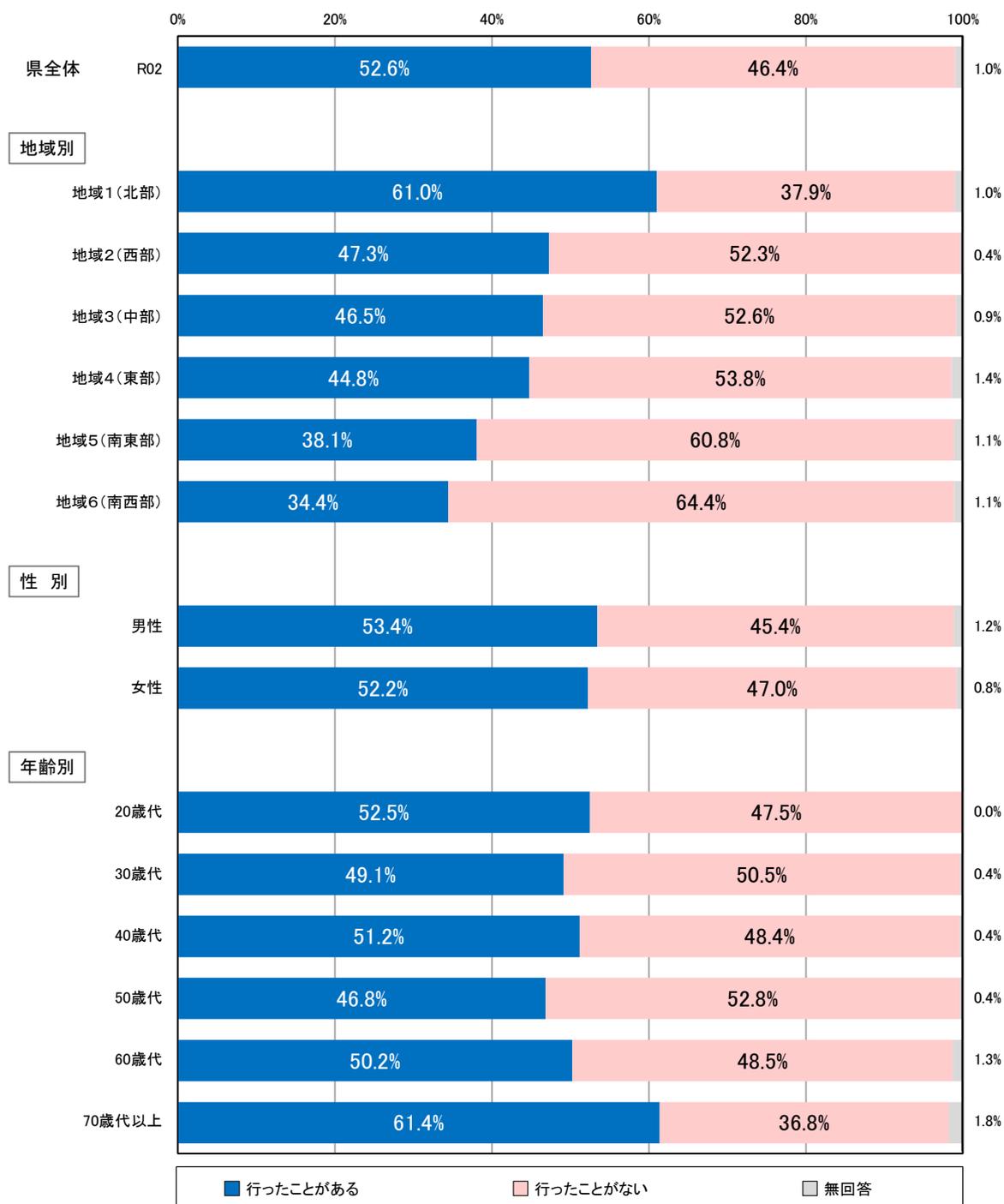
- 平城京天平祭の認知度については、「行ったことがある」(「知っていて、よく行く」+「知っていて、行ったことがある」)人は15.9%で、「知っているが、行ったことはない」も含めた「知っている」人は59.7%となっています。
- 地域別にみると、「行ったことがある」人が最も多いのは『地域1(北部)』(22.0%)で、次いで『地域2(西部)』(11.6%)となっています。一方、『地域5(南東部)』(9.1%)や『地域6(南西部)』(4.4%)では、「行ったことがある」人は1割未満と少なくなっています。「知っている」人の割合が最も多いのは『地域1(北部)』(70.2%)となっています。
- 「行ったことがある」人の割合を性別にみると、『男性』(16.2%)も『女性』(15.9%)もほぼ同程度となっています。「知っている」人の割合は『女性』(61.5%)の方が『男性』(57.1%)より4.4ポイント多くなっています。
- 「行ったことがある」人の割合を年齢別にみると、『70歳代以上』(20.4%)が最も多くなっています。「知っている」人の割合が最も多いのも『70歳代以上』(69.8%)が最も多くなっています。



※四捨五入の関係で内訳の合計が100%と一致しない場合があります。

(4)「平城宮跡歴史公園 朱雀門ひろば」の利用経験 (問19)

- 朱雀門ひろばの利用経験については、「行ったことがある」人は52.6%で、「行ったことがない」人は46.4%となっています。
- 地域別にみると、「行ったことがある」人が最も多いのは『地域1(北部)』(61.0%)で、次いで『地域2(西部)』(47.3%)となっています。一方、『地域5(南東部)』(38.1%)や『地域6(南西部)』(34.4%)では、「行ったことがある」人は4割未満と少なくなっています。
- 「行ったことがある」人の割合を性別にみると、『男性』(53.4%)の方が『女性』(52.2%)より1.2ポイント多くなっています。
- 「行ったことがある」人の割合を年齢別にみると、『70歳代以上』(61.4%)が最も多くなっています。

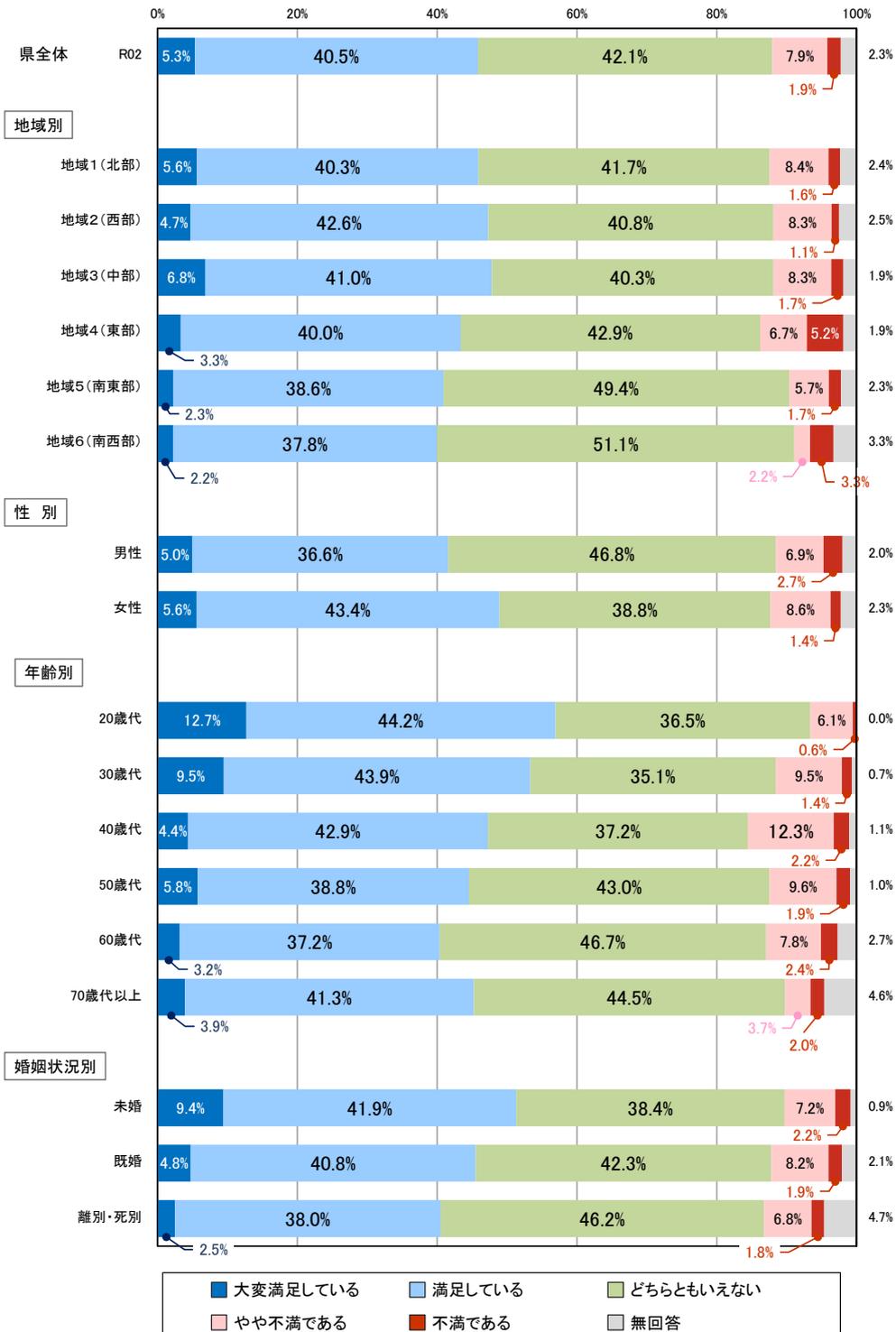


※四捨五入の関係で内訳の合計が100%と一致しない場合があります。

5. 農林業について～食生活～【豊かな「都」をつくる】

(1) 日頃の食生活について (問20)

- 日頃の食生活については「満足」(「大変満足している」+「満足している」)している人は 45.8%となっています。一方、「不満」(「やや不満である」+「不満である」)を抱いている人は 9.8%となっています。
- 地域別にみると、「満足」している人の割合が最も多いのは『地域3(中部)』(47.8%)、次いで『地域2(西部)』(47.3%)となっています。一方、「不満」を抱いている人の割合が最も多いのは『地域4(東部)』(11.9%)となっています。
- 「満足」している人の割合を性別にみると、『女性』(48.9%)の方が『男性』(41.6%)より7.3ポイント多くなっています。
- 「満足」している人の割合を婚姻状況別にみると、『未婚』(51.3%)の人が最も多くなっています。

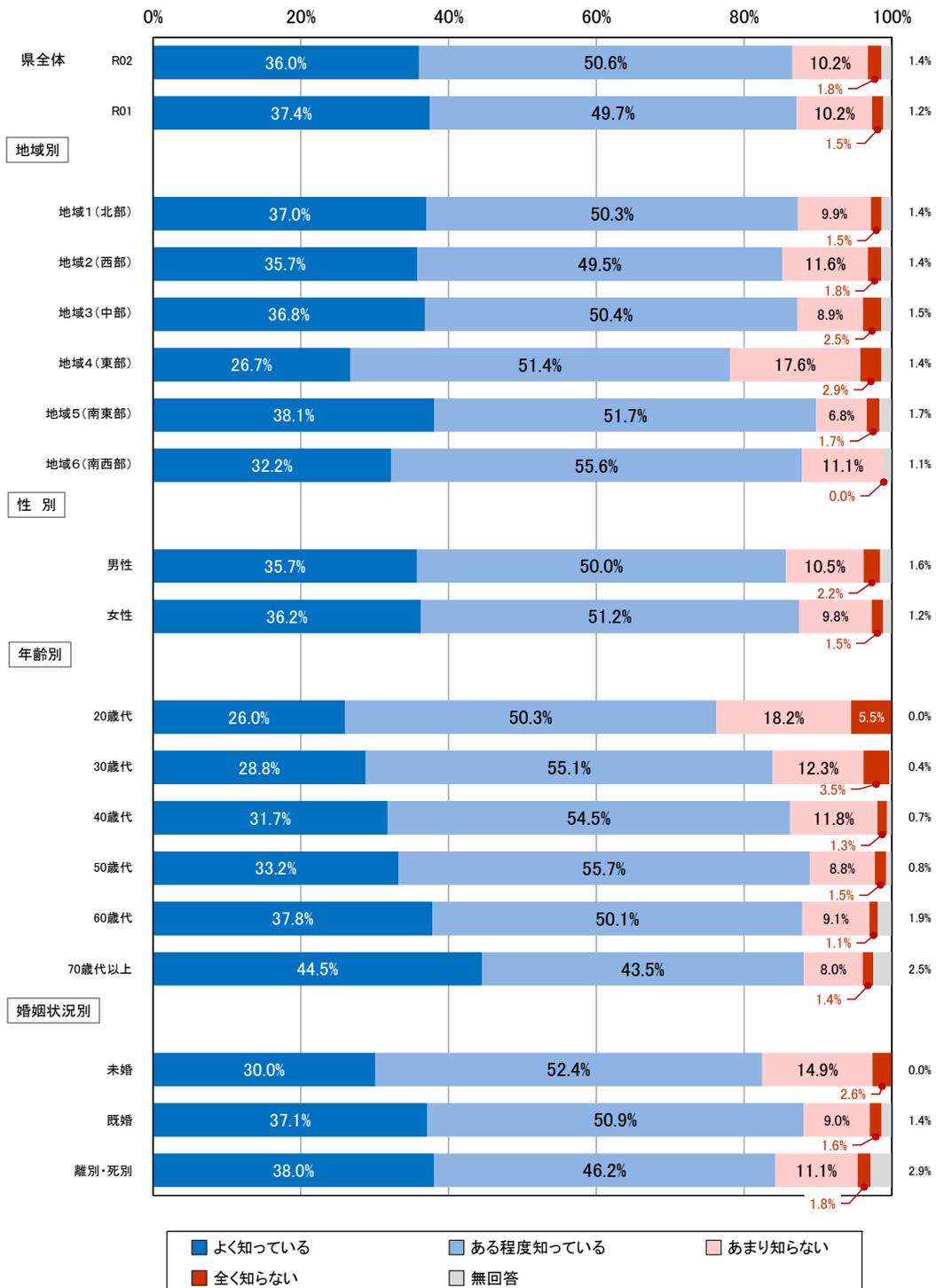


※四捨五入の関係で内訳の合計が100%と一致しない場合があります。

6. 農林業について～食品ロス～【愉しむ「都」をつくる】

(1) 「食品ロス」問題の認知度 (問 21)

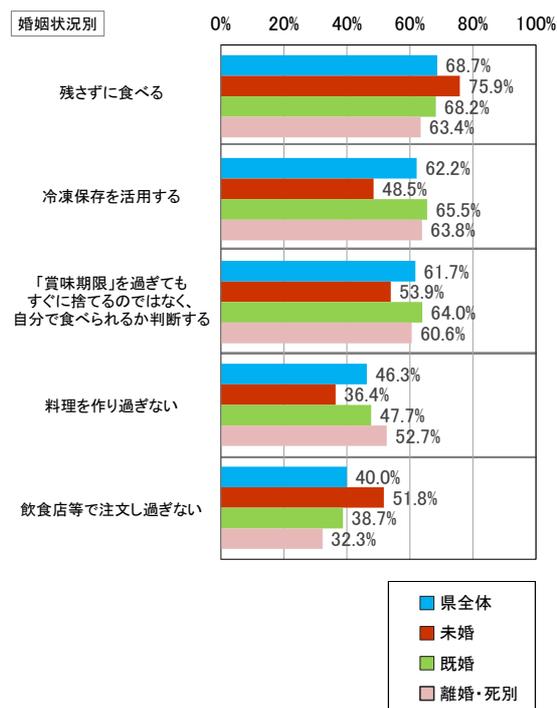
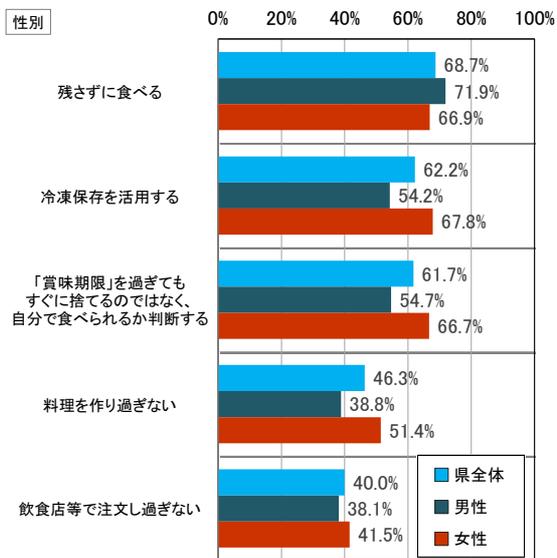
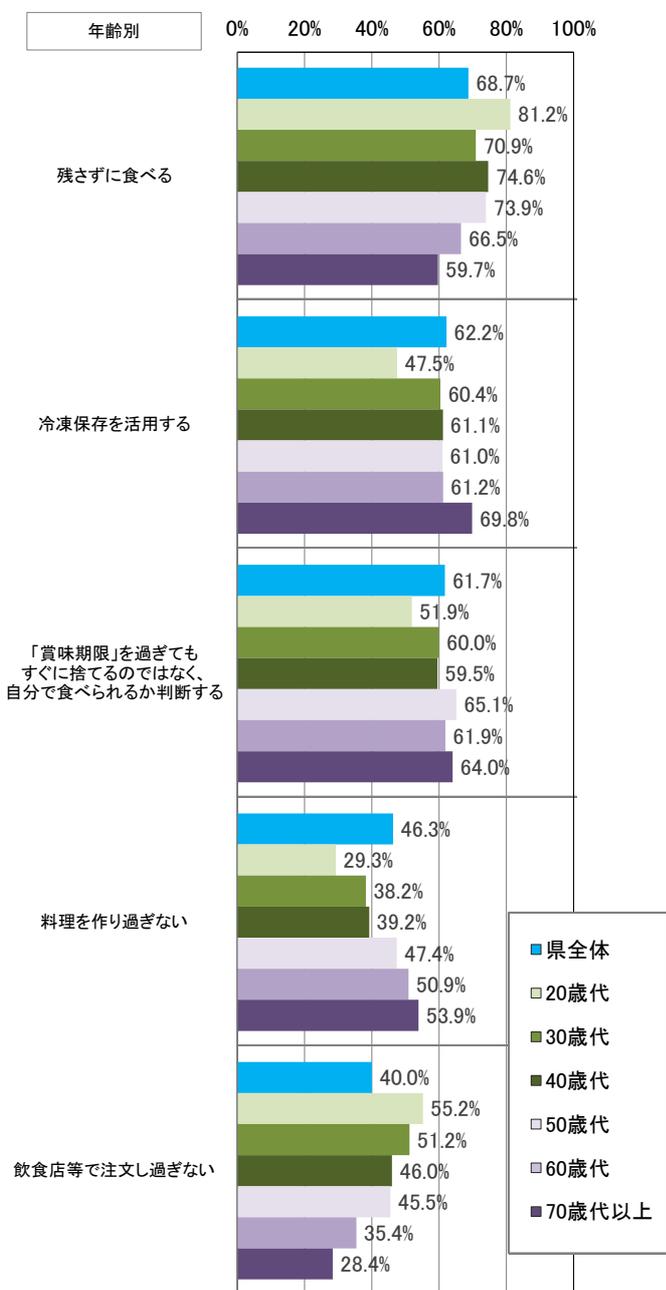
- 「食品ロス」問題の認知度については、「知っている」（「よく知っている」+「ある程度知っている」）人は 86.5%となっています。
 [*「食品ロス」とは、食べられるのに廃棄される食品のことで、食料資源の浪費や環境への負荷などの観点から問題となっています。*]
- 地域別にみると、「知っている」人が最も多いのは『地域5(南東部)』(89.8%)で、次いで『地域6(南西部)』(87.8%)となっています。一方、『地域4(東部)』では、「知っている」は78.1%と、唯一8割未満と少なくなっています。
- 「知っている」人の割合を性別にみると、『女性』(87.4%)の方が、『男性』(85.7%)より1.7ポイント多くなっています。
- 「知っている」人の割合を年齢別にみると、『50歳代』(88.9%)が最も多く、次いで『70歳代以上』(88.1%)となっています。一方、『20歳代』(76.2%)では、「知っている」人は8割未満となっています。
- 「知っている」人の割合を婚姻状況別にみると、『既婚』(88.0%)が最も多く、『未婚』(82.5%)が最も少なくなっています。



※四捨五入の関係で内訳の合計が100%と一致しない場合があります。

(2) 「食品ロス」削減への取り組み (問22 県全体についての上位5項目を掲載)

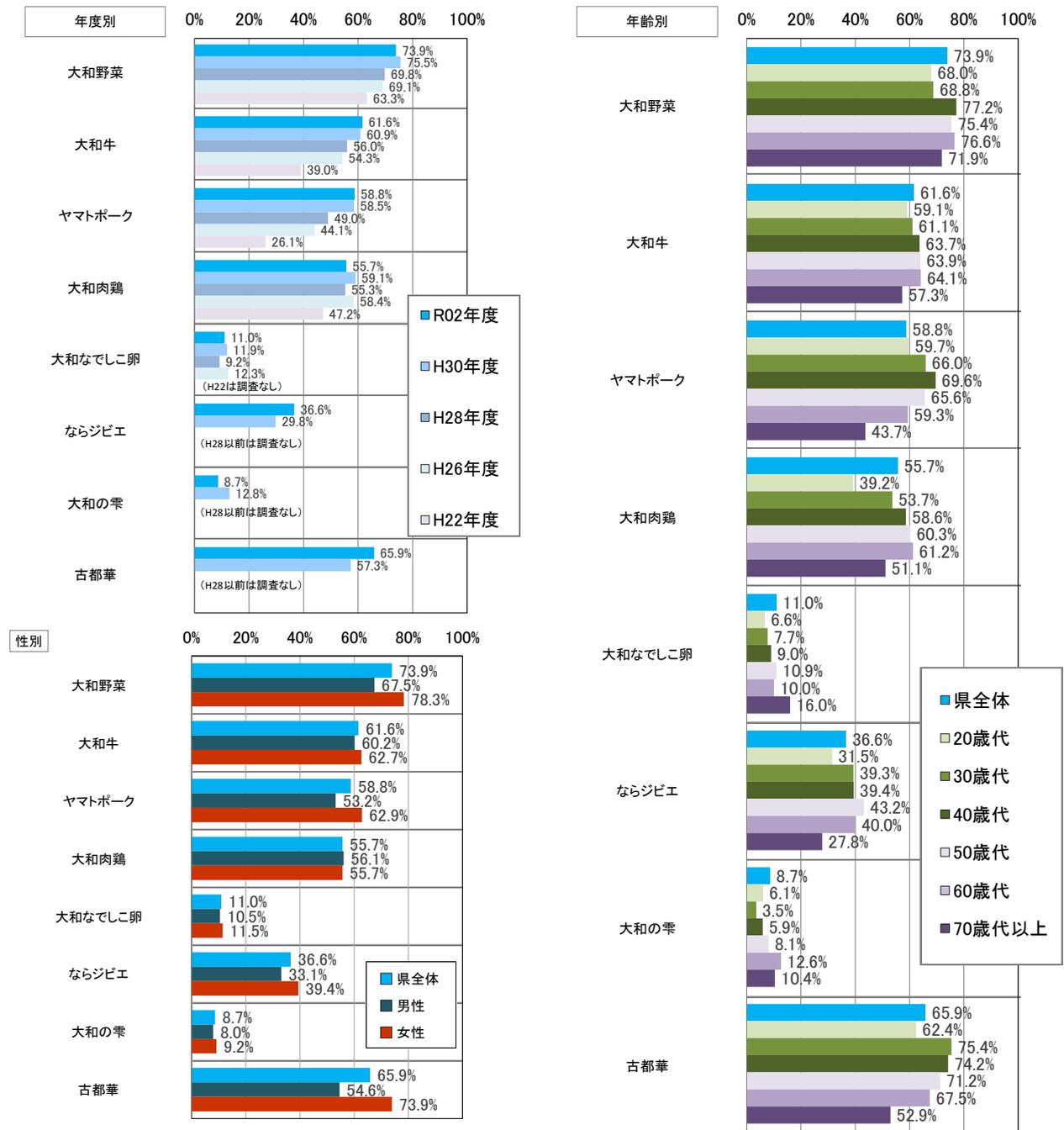
- 「食品ロス」削減への取り組みについて尋ねたところ、「残さず食べる」(68.7%)が最も多く、次いで「冷凍保存を活用する」(62.2%)、「賞味期限」を過ぎててもすぐに捨てるのではなく、自分で食べられるか判断する」(61.7%)、「料理を作りすぎない」(46.3%)、「飲食店等で注文し過ぎない」(40.0%)が多くなっています。
- 「残さず食べる」と答えた人については、年齢別では『20歳代』、性別では『男性』、婚姻状況別では『未婚』が最も多くなっています。
- 「冷凍保存を活用する」と答えた人については、年齢別では『70歳代以上』、性別では『女性』、婚姻状況別では『既婚』が最も多くなっています。
- 「賞味期限」を過ぎててもすぐに捨てるのではなく、自分で食べられるか判断する」と答えた人については、年齢別では『50歳代』、性別では『女性』、婚姻状況別では『既婚』が最も多くなっています。
- 「料理を作り過ぎない」と答えた人については、年齢別では『70歳代以上』、性別では『女性』、婚姻状況別では『離婚・死別』が最も多くなっています。
- 「飲食店等で注文し過ぎない」と答えた人については、年齢別では『20歳代』、性別では『女性』、婚姻状況別では『未婚』が最も多くなっています。



7. 農林業について～県内産食材～【栄える「都」をつくる】

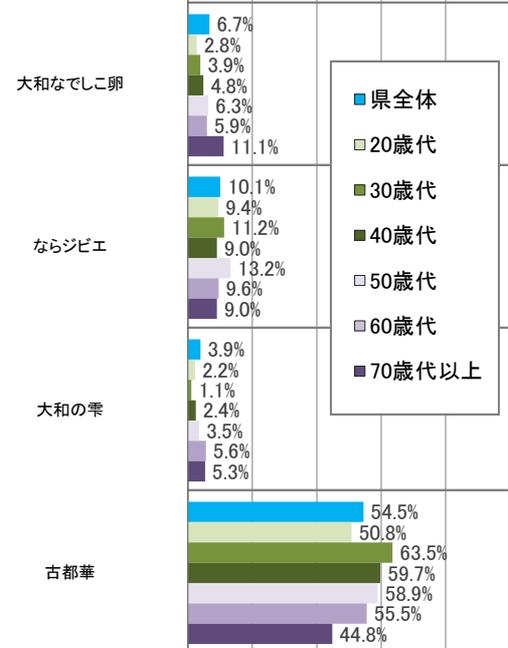
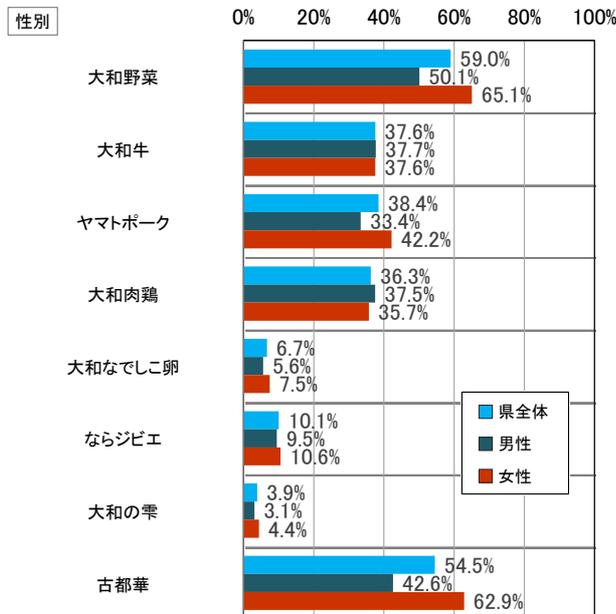
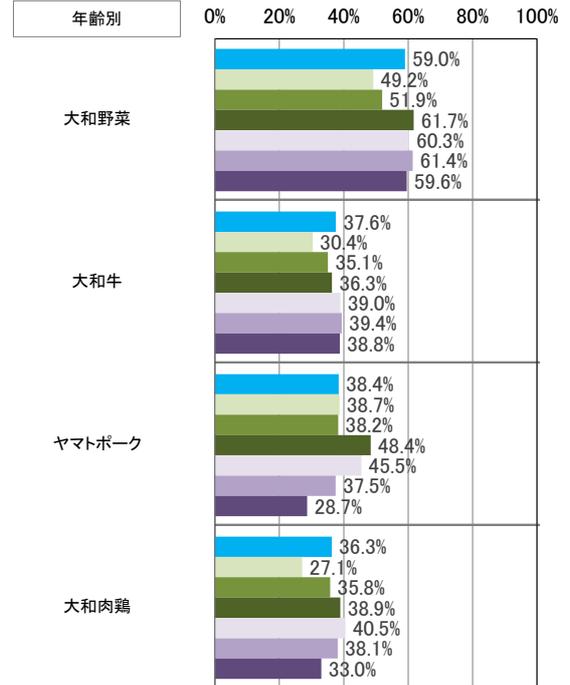
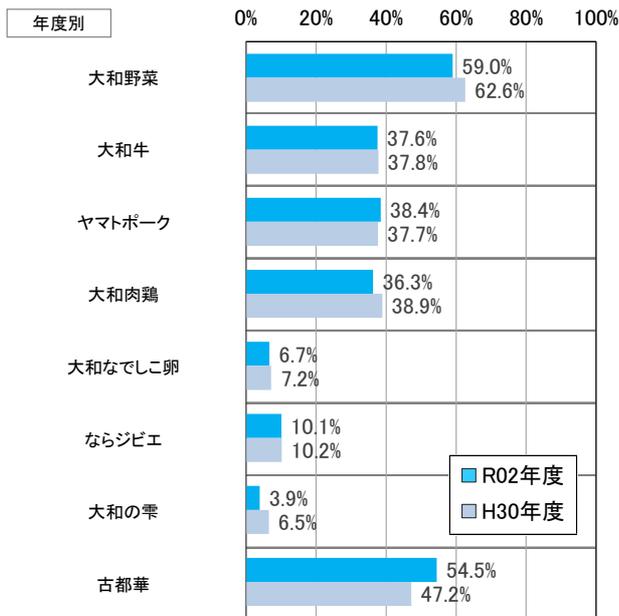
(1) 県内産食材の認知度 (問 23①)

- 県内産食材の認知度については、「大和野菜」(73.9%)が最も高く、次いで「古都華(いちご)」(65.9%)、「大和牛」(61.6%)、「ヤマトポーク」(58.8%)、「大和肉鶏」(55.7%)となっています。一方、「大和の雫(はちみつ)」(8.7%)が最も低くなっています。
- 平成 30 年度と比較すると、「大和野菜」、「大和肉鶏」、「大和の雫」の認知度は減少していますが、「ならジビエ」と「古都華」は増加しており、他の食材の認知度は横ばいとなっています。
- 県内産食材の認知度を性別にみると、「大和肉鶏」以外については『男性』よりも『女性』の方が高くなっており、特に「古都華」で差が大きくなっています。
- 県内産食材の認知度を年齢別にみると、「古都華」については『30 歳代』、「大和野菜」、「ヤマトポーク」については『40 歳代』、「ならジビエ」については『50 歳代』、「大和牛」、「大和肉鶏」、「大和の雫」については『60 歳代』、「大和なでしこ卵」については『70 歳代以上』が最も高くなっています。



(2) 県内産食材の購入又は飲食の有無 (問 23②)

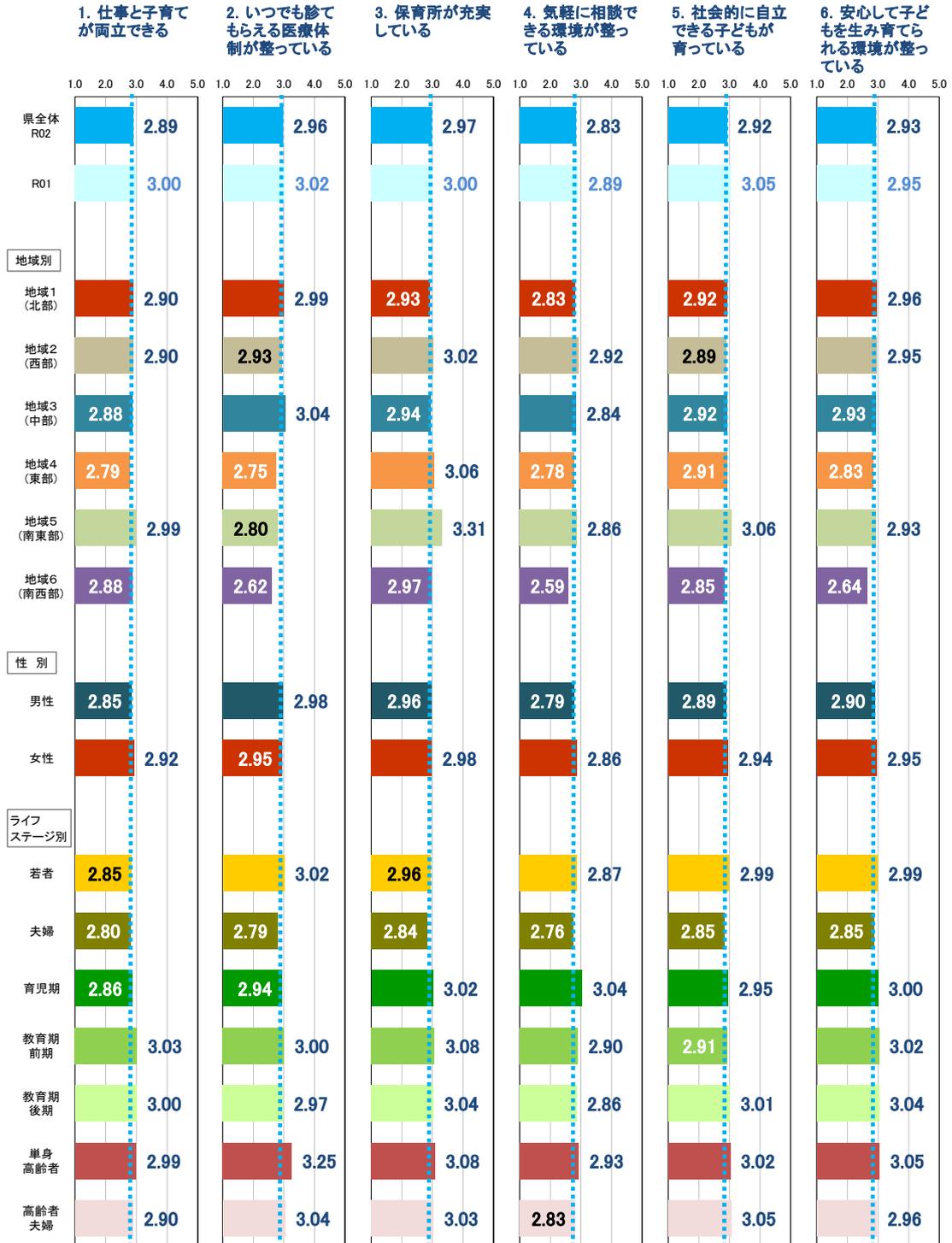
- 県内産食材を県内で「購入又は飲食したことがある」と答えた割合は、「大和野菜」(59.0%)が最も高く、次いで「古都華」(54.5%)、「ヤマトポーク」(38.4%)、「大和牛」(37.6%)、「大和肉鶏」(36.3%)となっています。一方、「大和の雫」(3.9%)が最も低くなっています。*問 23①で「知らない」と回答した人及び無回答の人を含む全有効回答件数に占める割合
- 平成30年度と比較すると、県内産食材を県内で「購入又は飲食をしたことがある」と答えた割合は、「古都華」については増加、「大和野菜」、「大和肉鶏」、「大和の雫」については減少しており、他の食材については横ばいとなっています。
- 県内産食材を県内で「購入又は飲食をしたことがある」と答えた割合を性別にみると、「大和牛」、「大和肉鶏」については『女性』よりも『男性』の方が高く、他の食材については『男性』よりも『女性』の方が高くなっています。
- 県内産食材を県内で「購入又は飲食をしたことがある」と答えた割合を年齢別にみると、「古都華」については『30歳代』、「大和野菜」、「ヤマトポーク」については『40歳代』、「大和肉鶏」については『50歳代』、「大和牛」、「大和の雫」については『60歳代』、「大和なでしこ卵」については『70歳代以上』が最も高くなっています。



8. 少子化対策について【愉しむ「都」をつくる】

(1) 子育てに関する満足度 (問 24 5段階ポイント評価)

- 子育てに関する6項目の満足度を5点(高い)～1点(低い)の5段階で評価しました。
- 満足度は、「3. 保育所が充実している」が 2.97 ポイントで6項目の中で一番高くなっています。
- 令和元年度と比較すると、すべての項目で満足度が低下しており、特に「5. 社会的に自立できる子どもが育っている」は 0.13 ポイント減と最も低下しています。
- 地域別にみると、『地域5(南東部)』は6項目中5項目で県全体の満足度より高くなっています。一方、『地域6(南西部)』は6項目すべてで県全体の満足度より低くなっています。
- 性別にみると、『女性』は5項目で県全体の満足度より高くなっています。
- ライフステージ別にみると、『教育期後期』と『単身高齢者』は6項目すべて、『教育期前期』は5項目で県全体の満足度より高くなっています。一方、『夫婦』はすべての項目で県全体の満足度より低くなっています。

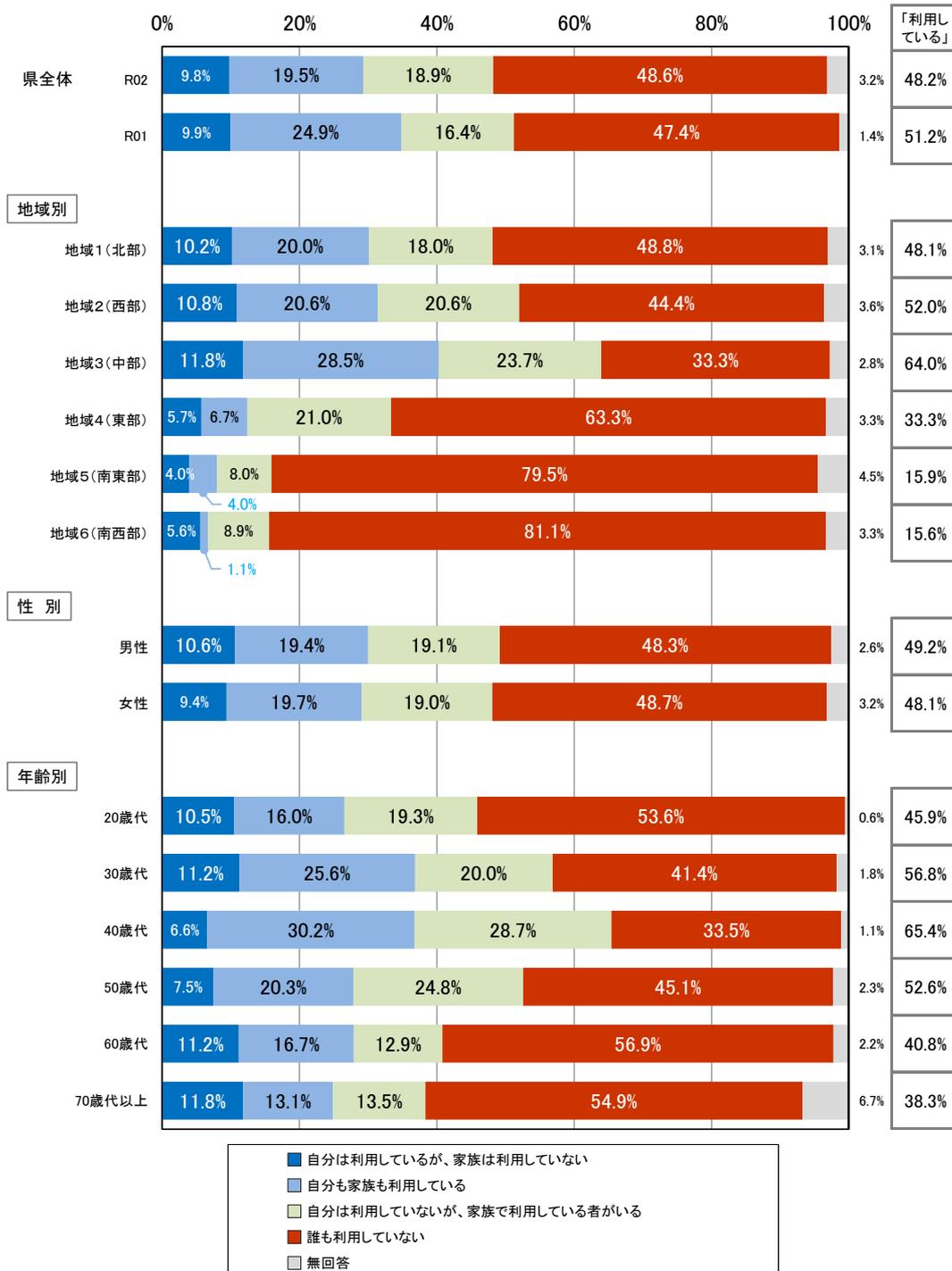


※棒グラフの外側に示した数値は、令和2年度の県全体よりも高いもの。.....は、令和2年度の県全体の値。

9. 健康づくりについて～自転車の利用～【愉しむ「都」をつくる】

(1) 自転車の利用状況 (問25)

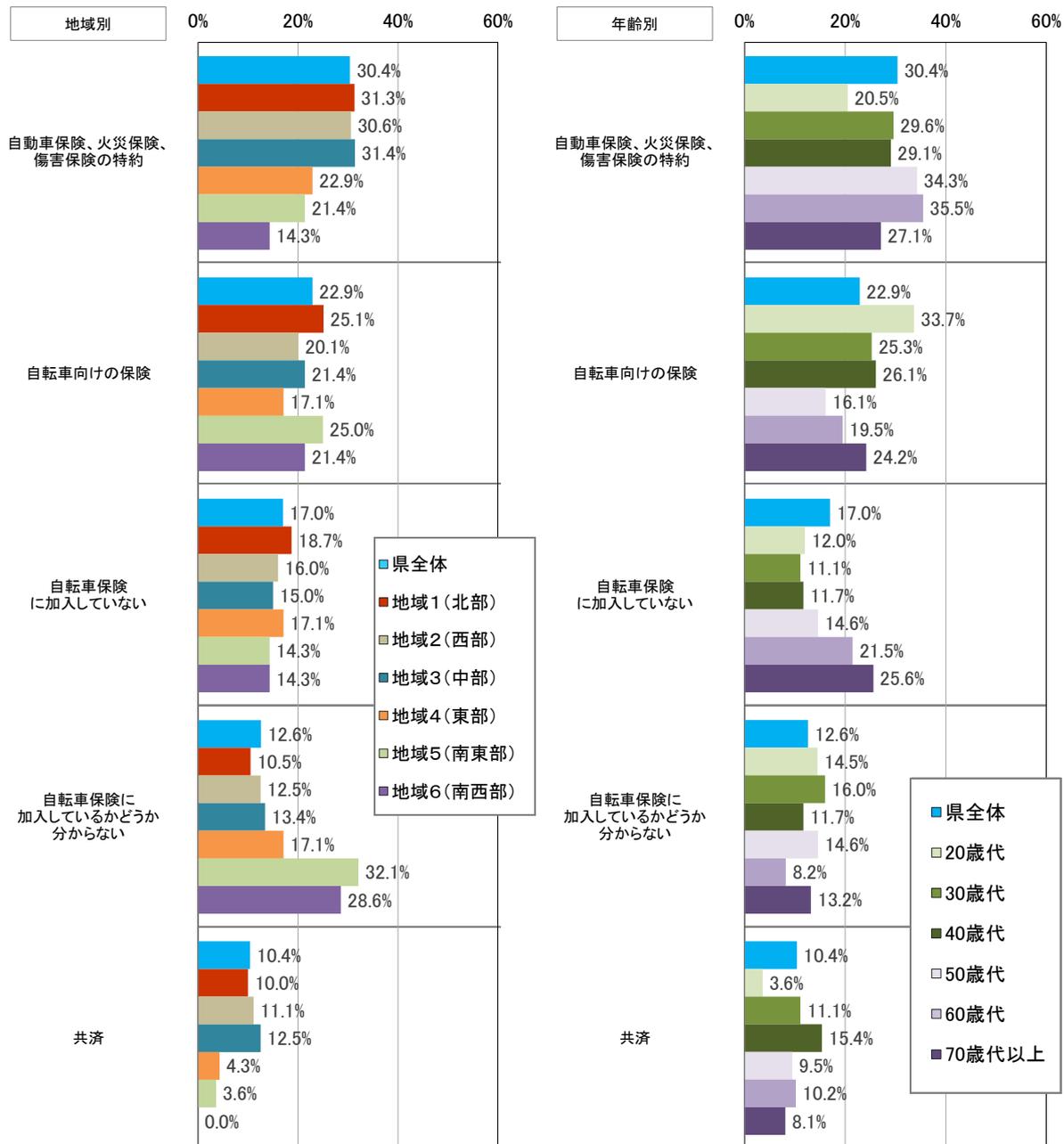
- 自転車を「利用している」(「自分は利用しているが、家族は利用していない」+「自分も家族も利用している」+「自分は利用していないが、家族で利用している者がいる」と答えた人の割合は48.2%、「誰も利用していない」と答えた人の割合は48.6%となっています。
- 令和元年度と比較すると「利用している」と答えた人の割合は3.0ポイント減少しています。
- 「利用している」と答えた人の割合を地域別にみると、『地域3(中部)』(64.0%)が最も多く、次いで『地域2(西部)』(52.0%)、『地域1(北部)』(48.1%)となっています。一方、『地域4(東部)』(33.3%)では約3割、『地域5(南東部)』(15.9%)、『地域6(南西部)』(15.6%)では2割未満と少なくなっています。
- 「利用している」と答えた人の割合を性別にみると、『男性』(49.2%)が『女性』(48.1%)より1.1ポイント多くなっています。
- 「利用している」と答えた人の割合を年齢別にみると、『40歳代』(65.4%)が最も多く、次いで『30歳代』(56.8%)となっています。一方、『60歳代』(40.8%)、『70歳代以上』(38.3%)では少なくなっています。



※四捨五入の関係で内訳の合計が100%と一致しない場合があります。

(2) 損害賠償保険や自転車保険の加入状況 (問 27 県全体についての上位5項目を掲載)

- 自転車事故を起こした場合に損害賠償が可能となる損害賠償保険や自転車保険の加入状況を尋ねたところ、「自動車保険、火災保険、傷害保険の特約」(30.4%)が最も多く、次いで「自転車向けの保険」(22.9%)、「自転車保険に加入していない」(17.0%)、「自転車保険に加入しているかどうか分からない」(12.6%)、「共済」(10.4%)となっています。
- 「自動車保険、火災保険、傷害保険の特約」と答えた人については、地域別では『地域3(中部)』が最も多く、年齢別では『60歳代』が最も多くなっています。
- 「自転車向けの保険」と答えた人については、地域別では『地域1(北部)』と『地域5(南西部)』が同程度で最も多く、年齢別では『20歳代』が最も多くなっています。
- 「自転車保険に加入していない」と答えた人については、地域別では『地域1(北部)』、年齢別では『70歳代以上』が最も多くなっています。
- 「自転車保険に加入しているかどうか分からない」と答えた人については、地域別では『地域5(南東部)』、年齢別では『30歳代』が最も多くなっています。
- 「共済」と答えた人については、地域別では『地域3(中部)』が最も多く、年齢別では『40歳代』が最も多くなっています。

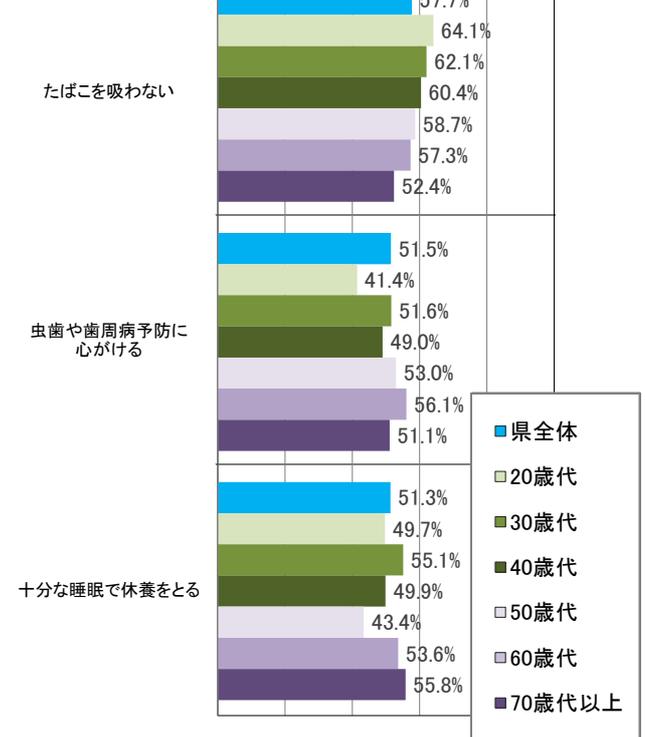
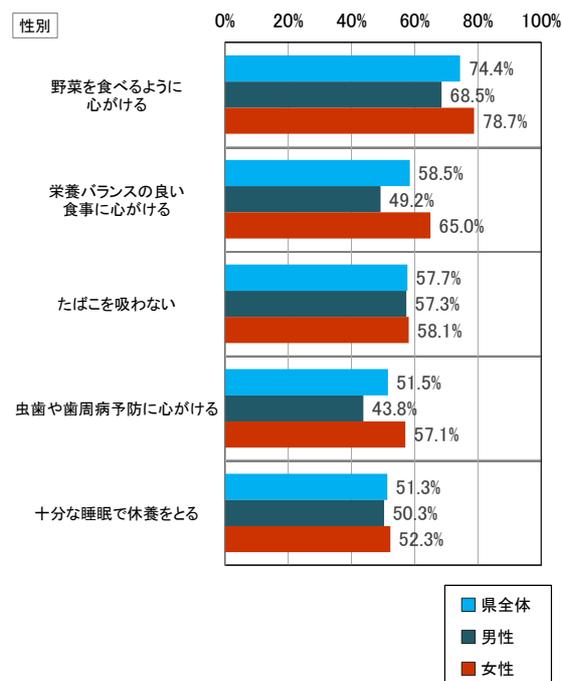
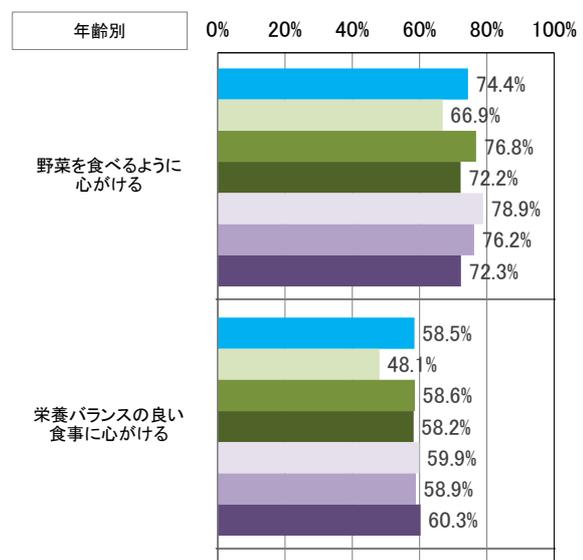
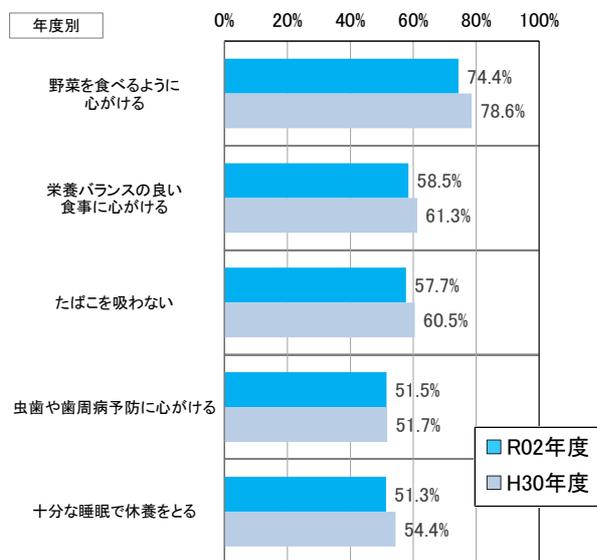


10. 健康づくりについて～健康づくり～【健やかな「都」をつくる】

(1) 自らの健康づくりの取組状況

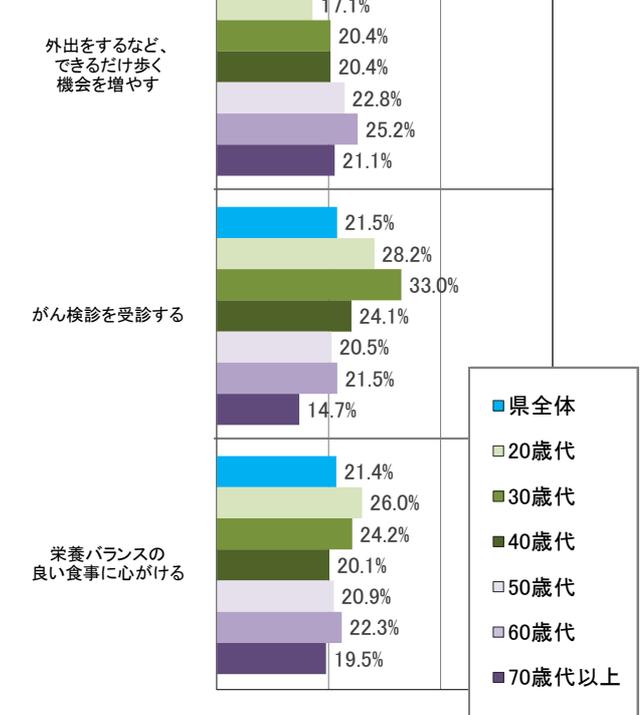
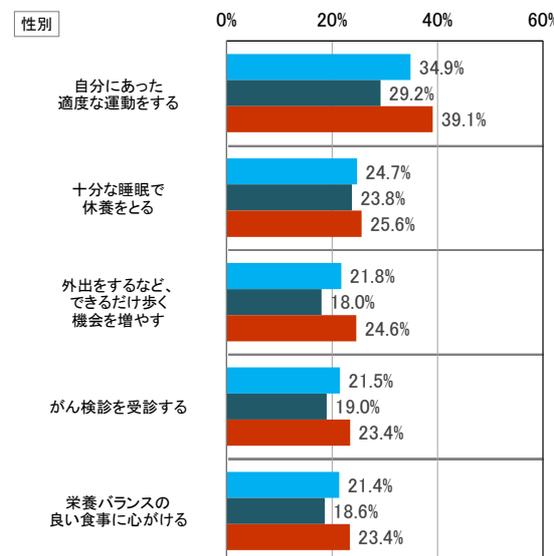
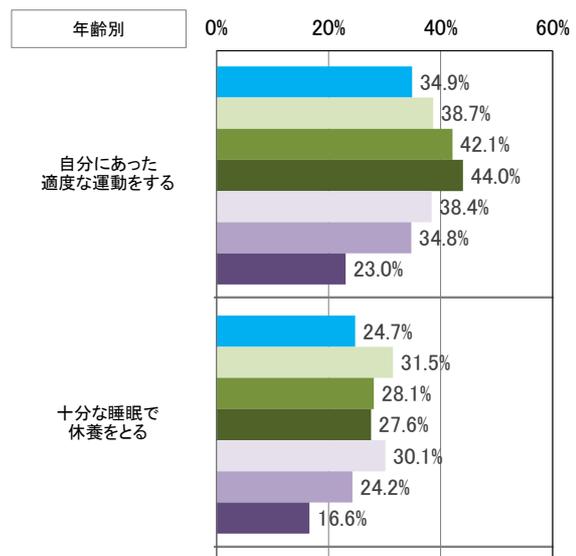
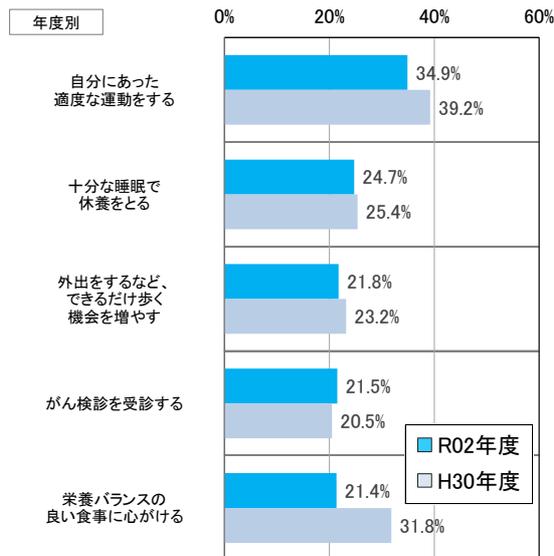
①この1年間にした健康づくり（問28-① 複数回答 県全体についての上位5個項目を掲載）

- この1年間に自らの健康づくりのためにしたことは、「野菜を食べるように心がける」(74.4%)が最も多く、次いで、「栄養バランスの良い食事に心がける」(58.5%)、「たばこを吸わない」(57.7%)、「虫歯や歯周病予防に心がける」(51.5%)、「十分な睡眠で休養をとる」(51.3%)となっています。
- 平成30年度と比較すると、「野菜を食べるように心がける」と答えた人が4.2ポイント減少するなど、上位5項目すべてで減少しています。
- 性別にみると、『女性』の方が『男性』より10ポイント以上多い項目が、「野菜を食べるように心がける」、「栄養バランスの良い食事に心がける」、「虫歯や歯周病予防に心がける」となっています。
- 年齢別にみると、すべての年代で「野菜と食べるように心がける」が最も多くなっています。次に『20歳代』、『30歳代』、『40歳代』では「たばこを吸わない」が、『50歳代』、『60歳代』、『70歳代以上』では「栄養バランスの良い食事に心がける」が多くなっています。



②今後したい健康づくり（問 28-②） 3つ以内で複数回答 県全体についての上位5個項目を掲載

- 今後、どのような健康づくりをしたいかは、「自分にあった適度な運動をする」(34.9%)が最も多く、次いで「十分な睡眠で休養をとる」(24.7%)、「外出をするなど、できるだけ歩く機会を増やす」(21.8%)、「がん検診を受診する」(21.5%)、「栄養バランスの良い食事に心がける」(21.4%)となっています。
- 平成30年度と比較すると、「栄養バランスの良い食事に心がける」と答えた人が10.5ポイント、「自分にあった適度な運動をする」と答えた人が4.3ポイント減少しています。
- 性別にみると、『女性』の方が『男性』より5ポイント以上多い項目が、「自分にあった適度な運動をする」、「外出をするなど、できるだけ歩く機会を増やす」となっています。
- 年齢別にみると、「自分にあった適度な運動をする」は全ての年代で最も多く、『20歳代』、『40歳代』、『50歳代』では「十分な睡眠で休養をとる」、『30歳代』では「がん検診を受診する」、『60歳代』と『70歳代以上』では「外出をするなど、できるだけ歩く機会を増やす」が続いています。



11. 文化振興について【智恵の「都」をつくる】

(1) この1年間の文化活動・文化鑑賞の有無 (問30)

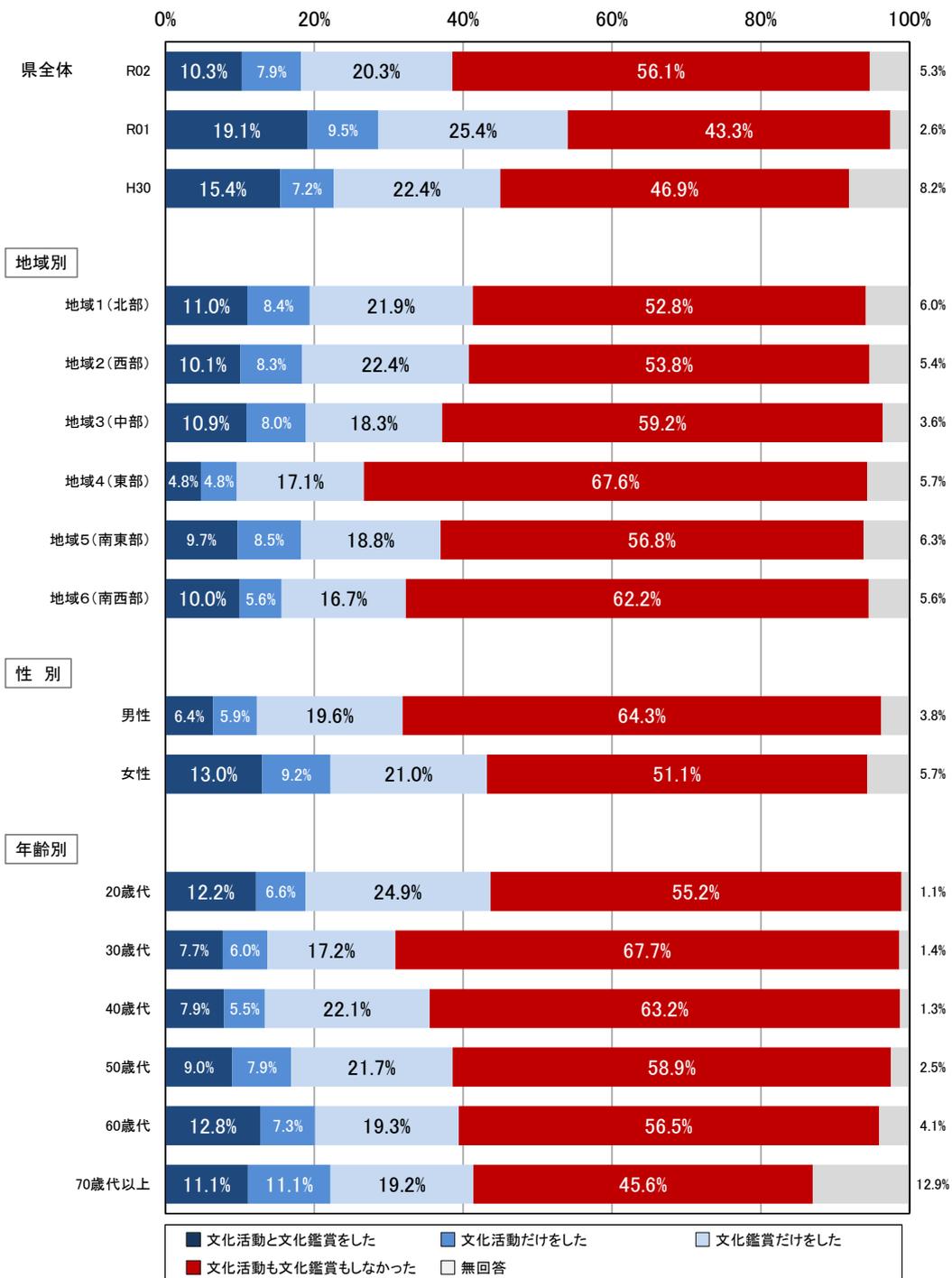
■この1年間の文化活動・文化鑑賞*の有無については、「文化活動または文化鑑賞をした人」(「文化活動と文化鑑賞をした」+「文化活動だけをした」+「文化鑑賞だけをした」)の割合は38.6%で、令和元年度(54.1%)と比べて15.5ポイント減少しています。

〔*「文化活動」とは、習い事や趣味の他、楽器の演奏やダンスなど自ら主体的に行う活動全般をいいます。〕
〔「文化鑑賞」とは、公演・展覧会など鑑賞全般をいいます。(家庭内での音楽鑑賞等を除きます)〕

■「文化活動または文化鑑賞をした人」の割合を地域別にみると、『地域1(北部)』(41.2%)が最も多く、次いで『地域2(西部)』(40.8%)、『地域3(中部)』(37.2%)となっています。一方、『地域4(東部)』(26.7%)では3割未満となっています。

■「文化活動または文化鑑賞をした人」の割合を性別にみると、『女性』(43.2%)の方が、『男性』(31.9%)より11.3ポイント多くなっています。

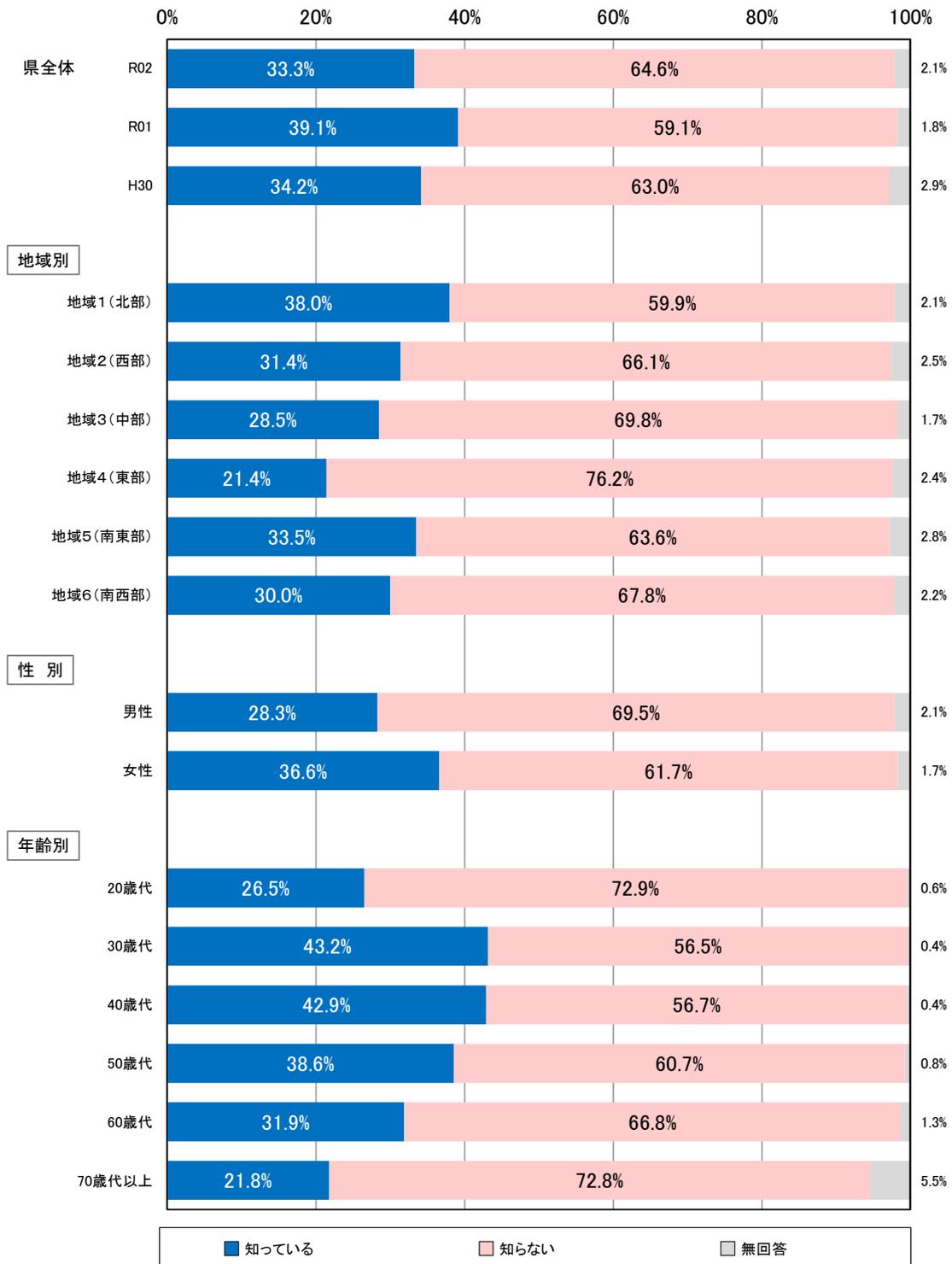
■「文化活動または文化鑑賞をした人」の割合を年齢別にみると、『20歳代』(43.6%)が最も多く、次いで『70歳代以上』(41.4%)となっています。一方、「文化活動も文化鑑賞もしなかった人」の割合は『30歳代』(67.7%)が最も多くなっています。



※四捨五入の関係で内訳の合計が100%と一致しない場合があります。

(2) 「ムジークフェストなら」の認知度 (問 31)

- ムジークフェストなら 2019 の認知度については、「知らない」(64.6%)が「知っている」(33.3%)と比べ多くなっています。「知っている」と答えた人は、令和元年度までは増加傾向にありましたが、今回調査では令和元年度から5.8ポイント減少しています。
- 「知っている」と答えた人を地域別にみると、『地域1(北部)』(38.0%)が最も多くなっています。一方、『地域3(中部)』(28.5%)と『地域4(東部)』(21.4%)では2割台と少なくなっています。
- 「知っている」と答えた人を性別にみると、『女性』(36.6%)の方が『男性』(28.3%)より8.3ポイント多くなっています。
- 「知っている」と答えた人を年齢別にみると、『30歳代』(43.2%)が最も多くなっています。次いで『40歳代』(42.9%)となっています。『20歳代』を除き、年齢が高くなるほど「知らない」人が多くなる傾向にあります。

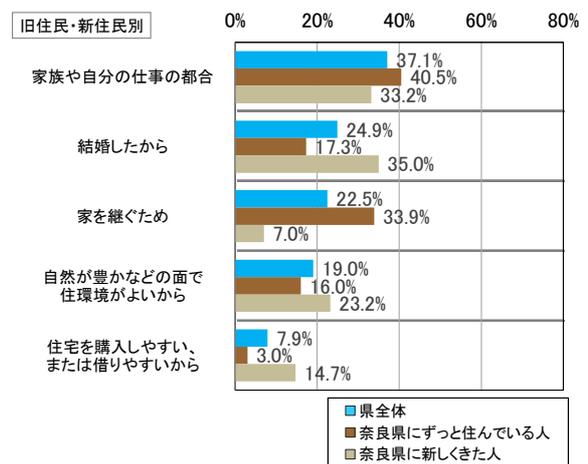
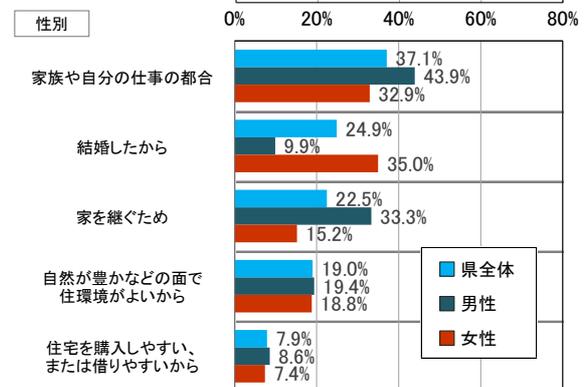
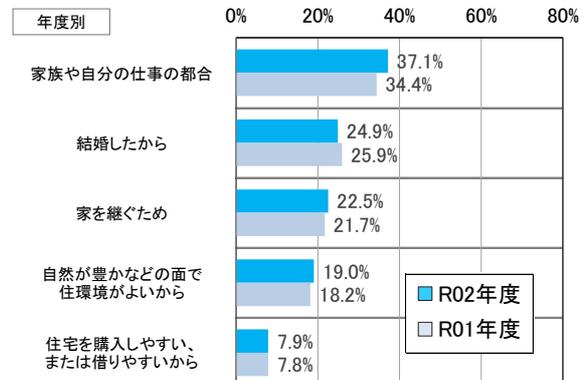
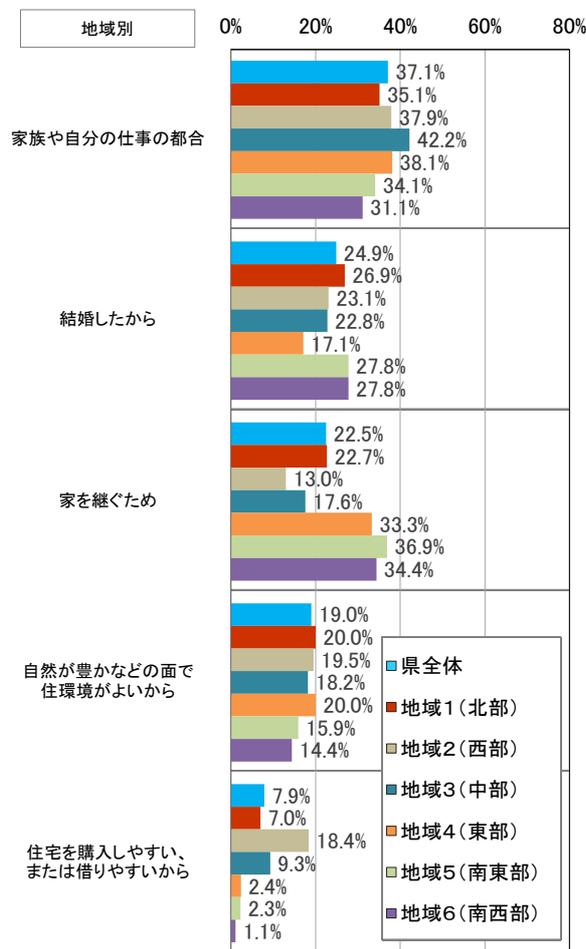


※四捨五入の関係で内訳の合計が100%と一致しない場合があります。

12. 回答者に関すること

(1) 奈良での居住理由 (問 42 2つ以内で複数回答 県全体についての上位5項目を掲載)

- 奈良での居住理由について尋ねたところ、「家族や自分の仕事の都合」(37.1%)が最も多く、次いで「結婚したから」(24.9%)、「家を継ぐため」(22.5%)、「自然が豊かななどの面で住環境がよいから」(19.0%)、「住宅を購入しやすい、または借りやすいから」(7.9%)となっています。
- 令和元年度と比較すると、「家族や自分の仕事の都合」が2.7ポイント増加しています。
- 「家族や自分の仕事の都合」と答えた人は、地域別では『地域3(中部)』が最も多く、性別では『男性』、旧住民・新住民では『奈良県にずっと住んでいる人』が多くなっています。
- 「結婚したから」と答えた人は、地域別では『地域5(南東部)』と『地域6(南西部)』が同率で最も多く、性別では『女性』、旧住民・新住民では『奈良県に新しくきた人』が多くなっています。
- 「家を継ぐため」と答えた人は、地域別では『地域5(南東部)』が最も多く、性別では『男性』、旧住民・新住民では『奈良県にずっと住んでいる人』が多くなっています。
- 「自然が豊かななどの面で住環境がよいから」と答えた人は、地域別では『地域1(北部)』と『地域4(東部)』が同率で最も多く、性別では『男性』、旧住民・新住民では『奈良県に新しくきた人』が多くなっています。
- 「住宅を購入しやすい、または借りやすいから」と答えた人は、地域別では『地域2(西部)』が最も多く、性別では『男性』、旧住民・新住民では『奈良県に新しくきた人』が多くなっています。



令和2年度
県民アンケート調査
報告書
＜概要版＞

令和3年2月

奈良県総務部知事公室統計分析課
〒630-8501 奈良市登大路町30番地
電話 0742-27-8473
